411

むさし叢書　第四號

特251
799
344
314

五事件と各紙の論調

卷上

定價金拾五錢

精華書房發行

始

344-314.

あさひ叢書に就て

あさひ一個十五錢を買つて灰にして、人生を煙にして了ふも一生なら、十五錢出して、あさひ叢書を買つて智識の泉を掬つて、乾き切つた頭惱の渴を醫するのも一生だ。一生に變りはないから、何も此の叢書を是非買つて下さいと依賴する勇氣もないが、この叢書は讀んで了つたら必ず、何物かを握ませるものである事を、前提として編纂してある。ヤクザな本を、買ふ事と、讀む事は浪費だ。讀者を啓發するものであれば、價格は十五錢でも價値はダイヤモンドよりも尊い。最も此の位の自惚がなければ、此の不景氣に、出版なんか出來ない。讀了後感興の湧く樣な本ならば、レコの續く限り出版する。原稿を見て氣に入らなければ、原價を引請けて貰つても御免蒙る。此那內容のよい本を手に取つて買はない樣な心懸の人は日本にはあるまい。

□精華書房□

昭和七年六月
帝國圖書館

特251
799

＝近刊豫告＝

著一精野牧 者記聞新之聞新元

五・一五ヲ ロ事件秘史

血盟暗殺團と農民決死隊

頁百三製上判六四

定價 一圓 送料十二錢

內容目次

◇血盟暗殺團生る
◇水戸學との關係
◇血盟團上京す
◇日蓮前衞隊血盟式
◇水戸四人組の活躍
◇大官暗殺表の作成
◇井上準之助氏暗殺さる
◇第二次の大陰謀
◇團琢磨男射殺さる
◇血盟團の大檢擧
◇農民決死隊の出現
◇水戸愛鄉塾の正體
◇愛鄉塾長の青年時代
◇愛鄉運動とは何んぞや
◇日本再建の綱十箇條
◇農民決死隊の外廓運動
◇農民一萬人の署印を集む
◇滿洲と愛鄉塾の交涉
◇土浦山水閣の軍大會議
◇血盟團殘黨の活躍
◇決行前の大座談會
◇農民決死隊水戸を出發
◇土浦で最後に秘密會議
◇五月十五日帝都襲擊
◇犬養首相殪る
◇各變電所を襲擊
◇西田稅狙擊さる
◇決死隊長東京を脫出
◇農民決死隊の檢擧
◇農民ハルビンで自首
◇茨城縣の地主と農民
◇血盟暗殺團列傳
◇農民決死隊列傳

東京・銀座

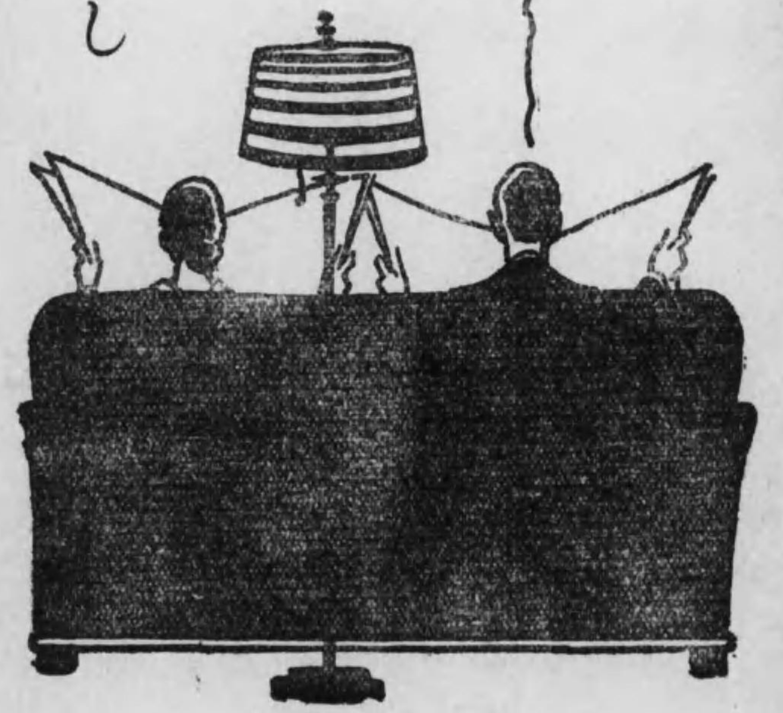
精華書房
電話 京橋 四八一
振替 東京 一八一三

中外商業新報

『中外』を讀む人に

經營難なく

生活難なし



序言

五・一五事件こそ前古未曾有の大變事であつた。

國の總理大臣が、現役の軍人、士官學校生徒等に虐殺された。この大事突發は、一時、我が立憲政治も終焉を告げたかに思はしめたが、幸にして當局の適宜なる處置と、我が新聞言論界の活躍に依つて眞相が傳えられ、國民大衆は、極めて靜穩に事件を正視得たから、幸にして、其れ以上の出來事を防ぎ得た。

若し、大震火災當時の如く、言論機關が壞滅して居たとしたら、必ずや流言蜚語盛んに起り、我が國の危機襲來を思はしたかも計り知れない。

大事變に際する新聞本來の使命遂行こそは、實に崇高で、其間何物の權威も此に及ぶべくはない。

故に、眞の記者は、社說に、報導に、おのがじし信ずる道を敢然と採つて動かず、かくて

新聞は永遠に光と命を有する。

事變當時、大阪朝日、福日、都等の論說は最も鋭しとされて居た、執筆者一二氏に聞いて見ると、何も平素と變つた處なく平然と筆を執つたと云ふて居る。

表面水の如き冷靜を保ちつゝ、燃ゆる祖國愛の許に堂々の論陣を張る記者の筆こそ、明鏡止水の境地であらう。

あゝ記者、眞の記者の推稱の爲に、本書を發行する事とした。

昭和七年九月十七日

新聞之新聞社長　式　正　次

五・一五事件と各紙の論調

新聞之新聞社編

速かに帝都の不安を除け

一國の總理大臣が帝都の眞唯中、しかも白晝官邸において射殺されたことは、言語道斷實に未曾有の不祥事であつて、それと時を同じうして警視廳、內大臣官邸、政友會本部、日本銀行、三菱銀行、各所の電力變壓所等にもまた爆彈または手りう彈による襲擊の行はれたのは、多分にデモの意味が含まつて居るにせよ、この不祥事件が相當大規模なる計畫の下に行はれたことを語るに十分である。しかして、日曜日とはいひ條、帝都治安の總本山ともいふべき警視廳の總監室までがピストルに見舞は

れ、事件の犯人が警察にも憲兵隊にも捕はれずして、悠々自首するを待つ外なかつた如き、帝都の市民をして一層の不安を加へしむるものがあるのである。

この事件に關して吾人のもつとも深憂禁じ得ないのは、一種の理論の上に政治的の變革を企圖するのではないかと考へられることである。計畫の規模内容についてはいまだ十分に知ることを得ないにしても、遠因が現在の政黨政治の弊害を憤慨するの餘りに發したことだけは想像出來るのである。政黨政治の弊害の近年特に甚だしいのは既に定評の存するところで、從つて青年人士が一面忠良の國民として何等か非常の手段を用ゐてもこれを打破せんことを考へるその純情は諒することが出來るのであるが、純情のほとばしるところ遂に斯の如き直接行動に及び、明治天皇ひつ生の御偉業とも申すべき立憲政治の根本までも破壞することがあつては、いはゆる玉石共にやくもの、結果の期待と相反するはもちろん、斷じて許すことを得ないのである。『廣く會議を起し萬機公論に決すべし』の御誓文は明治大帝が憲章御制定の根本精神であり、『皇朕れ仰て皇祖皇宗及皇考の神祐を禱り、併せて現在及將來の臣民に率先しこの憲章を履行して愆らざらんことを誓ふ』と誓はれたその憲章紛更の責任が、萬一にも若き純情の者によつて取られんことは、それが純情の結果であればあるだけ、吾人の堪へ難しとするところである。

しかしながら、何よりも急務は帝都の治安を一刻も早く安全ならしめることである。今回の事件と共に、内務當局が從來やゝもすれば濫發勝ちだつた記事差止めを行はず、事件の掲載を從來に比し可なりに自由にしたことは誠に機宜の處置で、ために人心の動搖を少うし得たことを喜ぶのであるが、吾人はこの際さらに警察と憲兵との協力を一層緊密にし、一日も早く計畫の根本を彈壓して人心を安堵せしめんことを望んでやまないのである。『假りにも軍人たる本分を忘れその職守を顧みず建軍の本義に背戻して輕擧まう動せんとする如きことあらば畏れ多くも五條の聖諭に背き軍紀を以て成る國軍においてはその神聖の綱紀を亂るものにして斷じて許すべからざるなり』とは、荒木陸相が師團長會議にした訓示で、近くは憲兵隊長會議に對し鈴木内相、川村法相共に口をそろへて右翼左翼に拘らず直接行動の豫防彈壓に力を餘さゞらんことを望んだのである。この脚下から今回の事件の突發したのは甚だ遺憾であるが、陸軍大臣にして力を傾けて訓示の徹底につとめ、内相、法相また斷じて所信にまい進せば、禍害を今にしてさん除すること決して難くないと信ずるのである。動機が純なるにせよ何にせよ、既に行動に現はれたる以上嚴に彈壓して餘さゞらんこと、いふ迄もない。事態は眞に重大である。一歩を誤れば陸相のいはゆる『神聖の綱紀』を亂るに至るのである。この意味から政府が嚴としてこの間に處する擧措を誤らざらんことを忠告するのである。（十七日附）

勅諭奉體と軍人政治不干與

海軍首腦部が去る十五日の不祥事件に關して愼重協議の結果決定した方針によると、部内よりかくの如き不てい漢をゞだした事に對して謹愼の意を表し、嚴重なる處斷、徹底的な檢擧を勵行して飽くまで軍紀の振肅を保持すると共に、この際特に軍人に賜はりたる勅諭の大精神を奉體していやしくも軍人が政治に干與するが如き態度に出づる事を極力排擊する趣旨であると傳へらるゝは、當然の事理とはいひながら、現下の狀勢に鑑みまことに機宜を得たる處置である。

これによつて當局の誠實率直な態度がうかゞはれ、かの凶變以來、國民の頭上に重く覆ひかゝつて居た不安の空氣も幾分は除去されたるやの感がある。けだし右決議の趣旨に關しては陸軍も無論同意見の事と思はれる。

畏くも明治大帝が軍人へ賜はりたる勅諭には、軍人のじゆん守すべき五條の大綱を示し給ひ、その第一たる『軍人は忠節を盡すを本分とすべし』の條下に、特に『世論に惑はず政治に拘らず唯々一途に己が本分の忠節を守り』と宣はせられてある。しかもこの聖勅下賜の五十年記念日が本年の一月に迎へられ、その際には更に優あくなる勅語を賜はり、これに奉答して誓詞を奉呈した陸海兩相として

は、今回の不祥事件に際會して恐懼おく能はざるちう情、さこそと推察せらるゝのである。希くはこの際拔本塞源の手段を盡して軍紀を振肅し、上下の道を正しくし、軍人たるものが『おぼろげなる事をかりそめに諾ひてよしなき關係を結び』或は『大綱の順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ふ』が如き事なきやう、一々勅諭の聖詞に照して嚴に戒ちよくする所あらんことを望むでやまない。

別して今回海軍當局も氣附たる聖勅を奉體しての軍人政治不干與の大原則については、目下新内閣出現を前にして軍部の意向が種々に取沙汰せらるゝ際ではあり、元來政變の原因が一部少數の壯年者とはいへ帝國軍人が時事に憤激して凶變を起し、首相を射殺した事件より發したものとすれば、この場合一層軍部當局が謹愼して右の原則に觸れざらん事を努むるは、國軍の基礎を固むる上にも、極めて重要事といはねばならぬ。これ吾人が今回の海軍當局の決意を壯とし、ちう心より贊意を表する所以である。（十九日附）

東京日日新聞

不穩事件と政局

國民の前に投げられた問題

犬養首相が兇手に斃れた夜、午前二時といふに親任式が行はれ、臨時首相の兼攝を拜命せる高橋藏相は、同日間もなく閣員一同の辭表を捧呈した。現内閣組織の大命を拜せる犬養氏の去れる以上、内閣總辭職はもとより當然の歸結である、こゝにおいて今日の問題は、後繼内閣が何人によつて組織されるかにかゝる。

いかなる時あつても、政局の變動が異常なる注意を惹くことはいふまでもないが、今回の政變に至つては、さらに幾多の問題を孕んでゐる。即ち政變の直接原因である首相の死は、ある思想を中心とする團結の手によつて行はれたと斷ずべき十分の理由がある。しかしてその思想として世人の考ふるところは、近來、隨處に聞ゆる議會否認と政黨に對する反感の聲である。即ち傳へられるファッショ運動こそ、今回の如き行動の背景をなすものと見られてゐる。しかしてわれ等の諒解するところでは今回の行動の中心は文字通りファッショを實現せんと企圖しつゝあるものゝ如く、從つて現在の議會制度とは、全然對蹠的政治樣式を夢みてゐるものゝやうである。われ等は秩序ある國家において、かくの如き現狀打破の計畫が力によつて遂行し得らるものでないことを信ずるけれども、十五日の如き事態が、一方、異常なる動搖を人心に與ふることはいふまでもない。しかしてこの人心の動搖は、時

に思ひもかけぬ處に事態を引張つて行くのである。

議會政治の存する限り、政黨の存在は不可避の現象である。しかしてわが國は、少くとも、いま議會政治の形式を採つてゐるのである。ゆゑに今回の政變より來る歸結は、多數を議會に有し、政治的理由によらざる事情のために總辭職せる政友會内閣が、再び首腦を代へて成立するのが事の自然と考へられなければならぬ。たゞしかれども、政黨に對する一般の心證は、ファッショを考へてゐる人でなくても、極めて惡いのである。事實において、政黨が黨利黨略に沒頭して國家を思はざる有樣は、近頃に至ります〳〵眼に餘るばかりである。いまの議會と政黨を直にどうすることも出來ないことを知つてゐても、さりとて政黨を今日のまゝにして置いていゝと思ふものは一人もないであらう。この一般的心理は、よしそれが直に形に現れないにしても、政局の推移に多少の影響を與へないと誰が保證し得よう。これ首相の死といへる事情に起因する政變の歸趨が、世人より平時以上の保留を以て眺められてゐるゆゑんである。

然るに、いふところの憲政の常道によつて後繼内閣の衝に當るであらうと思はるゝ政友會は、總裁の急死に會して、まだその後任を決定し得ないのである。首領なき政黨はその體を成さない。從つて政友會は現下の事情に鑑みて、早急にその首領を選定すべき非常重要の場合に直面してゐるのである

が、本稿執筆までには、なほその緊要事をさへ決定し得ないのである。これすでに政黨に對する信用と威嚴をさらに低下するに十分な事態ではないか。萬一、總裁の決定が長引き、または急遽これを定めんとして黨内に動搖を來す如きことあれば、政友會は自ら政權に近づく機會を委棄するばかりでなく、いよ〳〵政黨の信用を失墜するものといはなければならぬ。政黨のていたらくは、今現にこの通りなのである。

けれども端的にいへば、われ等はいま直に議會政治を根本から變改するか否かといふほど、突き進んだ形勢の中にはゐないと思ふ。けれども政黨がその政黨らしからざるために議會政治に、大きな龜裂を生じたことは否定出來ない。從來もさうであつた。しかしながら今度ほど深刻に議會政治が檢討の俎上に上ぼつたことはないのである。この事情の下に、元老は御下問に答へなければならぬのである。ほのかに聞けば、西園寺公は憲政の運行が水の低きにつくが如く、極めて自然に行はれんことを希望し、それには議會政治の國において行はれてゐるところの常道のわが國に確立されんことを期してゐるとのことである。御上の御信任を拜し、國民の信望を擔ふ元老なき時における最も安全なる政治推移の道は、おそらくそれが最善であらう。たゞわが國においては、形は出來てゐるが、その中味が整つてゐないのである。けれども、そのゆゑに議會政治を否認することが賢明であるか、或は國民

相共に議會政治の實をあぐるために心を新にして努力すべきか、それが國民の考へねばならぬところであると思ふ。國内に不安の事象の生ずることは、政治中心に力と威信の缺けてゐるためである。われ等は政治の本體を强固にしなければならぬ。それが今回の事件より教へられた痛切な教訓でなければならぬ。罪は法を以てこれに臨む。けれども罪の人を生ぜる事情は、一片の法を以ては、如何ともすることを得ないのである。國民の深思すべきはこの點ではないか。

新聞

首相の遭難と政局の不安

明朗なる政治の出現を望む

世相の險惡を憂へしめた時期は既に過ぎて、今や眞實の意味において國狀を憂へしむる時期となつた。立憲國の總理大臣が官邸の私室において、隊伍をなせる闖入者のために射殺され、同一時刻において他の官邸、公署、政黨本部に對しても、不祥事が演出されたのである。我等は何よりも先きに大政輔弼の重責にある首相が不慮の遭難に斃されたるについて、深甚の弔意を表すると共にその不祥事

の演出が、國民に對して如何に甚大なる恐怖と驚愕を與へたかを痛心するものである。たゞそれ輔弼の責任機關は憲政上の要件たり、既に定まれる成例は必ず定まる處に定まり、後の大政に輔弼するものは心力を盡くして聖明を安んじ奉るべく、國民は立憲政治の嚴然たる存在に安意し、冷靜己れを持し沈着業に從ひ、いやしくも人心を動搖せしむるなからん事を望む。それこそは不祥事によつて損傷されたる名譽を回復すべき、文明國民としての義務であり立憲國民としての責任である。

この戰慄すべき不祥事が、如何なる理由において企圖され如何なる人物によつて演出されたかは、この場合我等は深く論及する事を避け、たゞこの事件の經過のみを見るも、それが明白なる立憲政治への冒瀆行爲である事は無論である。殊に今回の事件は立憲政治に對する冒瀆としての政治的色彩が極めて濃厚であり、既往に見たるが如き無知にして無思慮なる直接行動とは、その性質實體共に異なれるが故に、そこに考へさせる事件の重大性があると信ずる。犬養首相及びその內閣については、組閣の當初から存在した輔弼統督の遺憾があり、施政のすべてを漫談的に取り扱ふ態度の遺憾はあつたが、それを論議し若くは匡救するには立憲的なる手段と方法とがあり、最近に現れかけた正統的政治意識の復活は、その論議及び匡救に期待せしむる何ものかゞあつたと思ふ。しかるに今回遂行された不祥事は、それ等の實質的政治の本體に觸れたものでなくして、立憲政治そのものに對する冒瀆行爲

としか見られぬが、我等はかゝる立憲政治と絕對に相容れざる企圖の現れを以て、昭代日本の最大の痛恨事とし、政治家も軍人も立言者も指導者も、事件の性質を直視して正確なる熟慮を加へ、殊にそのあるものに至つては脫皮的更生的なる、切實なる反省意識の流露が必要なりと思ふ。

從つて當面の政局を安定し前途の責任政治を全くするには、重大時局を擔當して國家的姿勢を整頓する以外に、立憲政治に對する冒瀆と見らるゝが如き、企圖及び思想を完全に解消するに足る明朗なる政治狀態の現出が必要だと考へる。無論首相急死後の臨時首相は經過的のものであり、內閣總辭職の上は元老の御下問となり、聖斷はその上にて下さるゝ事既に成例の定まる處であるが、元老この際の獻替は必ずや前述の關係を、刻下最大の要件とすべきを信じて疑はぬ。

たゞ我等が顧みて遺憾に堪へざる處のものは、過去において時代の雰圍氣が言論の自由を制限した事であり、若しその期間に完全なる言論の自由があつたなれば、今回の如き事件は企圖的にも思想的にも、成熟するに至らずして反省解消の機會が與へられたかと思はるゝ追憶である。必ずしも反動思想とはいはず、また反動思想以外の特殊なる興奮心理ともいはぬが、深憂を前途にいだかしめた過去は確かに存在したのであり、不幸にして時代の雰圍氣がそれに自由なる言論を許さなかつたため、與へらるべき反省解消の機會を封鎖した憾みなしとしないのである。同時に聯想さるゝ我等の遺憾は、

國憲國法に對する蔑視輕侮と、嚴肅なるべき規律の弛廢であり、それが誤まれる觀念の下に直接行動や、冒瀆行爲を誘發し易からしめた事であり、從つて政治家を初め庶人も軍人も、國憲國法及び規律の前に、その態度を一變せん事を勸告する次第である。

中外商業新報

人心の安定が急務

凶變と犬養首相の災厄

今回、帝都に起つた事件は、その人物、ならびに、その行爲の性質から見て、まことに驚駭に値すべき出來事であり、痛く人心を不安に陷らしめたが、中にも、犬養首相が、これがために、俄かに逝去したことは、まことに痛惜の至りに堪へない。犬養氏の過去數十年における政治生活を顧みれば、もちろん、毀譽俱に論ずべきもの少からざるべきも、兎も角、終始一貫、わが憲政發達のために努力し貢献し來つたことは、今更說明するまでもなく、世間の多くが、齊しく眼前に見たる顯著の事實である。先づ、わが憲政の恩人といつて差支ないのである。しかして、氏は、老來、志猶ほ壯んにして

いま、なほ、實際政治の上に、一段の努力を致さんとするときに當つて、志望遂に酬いられず、しかも、忽焉として悲壯の最後を告ぐるに至つたのは、實に惜みても餘りあることである。

犬養首相の遭難については、われらは、またしても、直接行動を以て、政治的の目的を達せんとすることの、甚だ不可なるゆゑんを切言せざるを得ないのであり、これは、獨り爲政者といはず、上下識者の深く考ふべき事態といはなければならぬ。それと同時に、今次の事件はもちろんのこと、その他、類似の事件に見ても、多く偶然突發するのでなく、一種の陰謀的計畫の發露と見るべきものが多い。しかるにも拘らず、これを未然に探知し防止することの出來ないことについては、少なくとも取締の任に當るものも責任の輕くないことを思はざるを得ないのである。

同時に、われらは、當面の急務として、治安の維持、人心の安定を圖ることに全力を注がんことを當局に望まなければならぬ。事件は、幸にして、今日のところ、すでに現はれたところ以上には發展もしないやうであるが、事件の性質が性質だけに、人心に與へた不安は、實に甚しきものあり、一時は、いかに成り行くことかと、ほとんど、戰々兢々たるものも一部にはあつた。この甚しき人心の不安は、延いていろ〳〵の忌むべき副作用を起すの危險あり、あるひは、あらぬ流言蜚語が飛び交ふて故らに人心に恐怖を與へ、殊に、神經の過敏なる財界方面においては、不安は恐怖を生み、恐怖は動

搖を生みて、意外の結果を招くやうなことがないとも限らないのである。されば、これに對しては、最も愼重なる注意を以て臨まなければならぬ。今日のやうな不況な財界に、萬一にも、この上の異變動搖にてもあれば、その結果のいかに寒心すべきかは、想像に餘りある。

幸ひにして、事件突發の翌日たる昨日來の實情を見るに、一般の人心も、割合に安定し、財界方面においても、取引所が、逸早く休市を實行したゝめに、證券暴落などから來る神經の刺戟も薄く、銀行界なども、至極平穩の經過を取つてゐることは、頗る喜ばしいことであるが、然りとて、一般の不安が、根本的に解消したとまでは、まだ〳〵いへぬであらう今日、われらは、先づ以て、政局が一刻も早く收拾安定され、新なる內閣の下に、それ〴〵の機關が、有ゆる方面に、有ゆる努力を傾け、治安維持、人心安定のために、施設畫策を盡さんことを望まなければならぬ。もちろん、相當の施設は昨日來、それ〴〵講じられたやうではあるが、何分にも、匆匆の際、臨時首相の下でもあり、萬全を期するわけには行かないのであるから、何人たるを問はず、新首相の下における新內閣の手によりて最も力强く、充分の上にも充分の注意を以て、この目的のために全力を注ぎ、いやしくも、この點において、糸毫の手拔かりもなく、以て一日も早く物情の平靜を招來せんことを、返す〴〵も切望して已まないのである。

讀賣新聞

犬養首相の死を悼む

不祥事に脅かされた帝都

十五日夕刻、疾風の如く首相官邸へ進入し來た一團の壯漢によつて傷つけられた犬養首相は、手當その効なく同夜半を以て遂に絕命した。政界に馳驅すること五十年、一國の宰相として一黨の總裁として、輝やける氏の過去の政治的經歷と共に、わが政界に寄與せるところの功績は決して少くはない轉變きはまりなき政界にあつて多年淸節を持し、時到つて內閣の首班に列した氏が、昨年十二月組閣後約半歲、いよ〳〵これからその抱負經綸を行はうとする時に當つて、不幸凶彈に斃れたことは、まことに遺憾千萬であつて、國家にとつても此の上なき損失である。原、濱口氏の凶變以來、現職の總理大臣が難に倒れたのは、今回で三度目である。近年相次いでこの凶事を見ることは、文明國として此の上なき不名譽であり、かやうな蠻行の繰返へされ居る間は、一國の政治は決して明るくなるわけがない。

×

今回帝都に勃發せる事件は、まことに不祥極まる凶事であつて、之によつて帝都の治安は紊され、輦轂の下をして恐怖の巷たらしめたものである。この犯行を敢へてしたものが、時弊匡救を目指して突進したもの丶如くであるが、しかし今日、いかなる目的の下に行はれるにもせよ、暴力を用ひて變革を計らうとすることは許さるべくもないことである。井上準之助氏の凶難から團琢磨男の射殺事件引續いて今回の犬養氏の凶變等、今年に入つてからの我國には、あまりにも凶事が相次いで起つた。これ等の事件が、現代の政治に慊らず、政黨政治の積弊を慨してこれを匡正せんとする一部の信念から發したことに疑ひはないやうである。即ち病根は深く遠く根ざされてゐるのであつて、世界不況等がこれの拍車となり、內治外交の不振がその推進機となつて國民的焦躁を煽つたものである。

×

頻々として起るこれ等凶事の疫除を計るには、表面的の取締りや彈壓を以てしてはその實効が望めない、即ち今日の社會不安は、その原因が何れにあるか、國民焦躁の起點は何物によつて作られてゐるか、先ずこれ等の根本問題から檢討してかゝるの必要が十分にあらう。今日、我國の現狀を見るに失業者は都會に溢れ窮民は地方に充ち滿ちてゐる。何と云つても社會不安は生活不安がその本源である、この根本を匡さない限り、凶事の絕滅は期し得ない、國利民福を計ることに、一國の政治家が怠慢であれば、民衆は自ら別個の政治形態を要求するに至る、この危險は、我國の近き過去に於ては、かなり鬱積してゐたのである。即ち今回の事件の如きは、古井戸に溜れるメタン・ガスの爆發の如きもので、これを不用意に見遁してゐた政治家の罪でもあるのだ。われ等は今回の不祥事を以て、まことに昭代にあるまじき不幸事と思ふ。秩序を破壞し安寧を紊る如き行爲は、努めてこれを排擊しなければならない、同時に事の由つて來る所以を仔細に點檢して、かゝることの再び無きことを切に望むものであるが、之れについては現代の爲政者も再思三省して可なりと思ふ。

時事新報

社會不安と後繼內閣

一　新內閣の使命は新經濟政策

法治國に於て最も悲しむべき兇變の頻發は、畢竟社會不安の反映に外ならず、其社會不安は國民大多數の明日の生活に對する不安が、憲法政治の運用に對する不滿と相俟つて、釀成激化されたるもの

と見做す可きであらう。從つて今日の政治不安を一掃する途は、先づ以て次に來る可き內閣が、國民大衆の生活を安定せしむる爲に、從來の行掛りに囚はれず更始一新の經濟政策を樹立することが、其前提でなければならない。殊に昨年十二月犬養內閣成立するや、多數國民は、之に依つて經濟界が收縮政策の重壓より解放され、不景氣打開、國民生活安定も其緒に就く可きを期待し、當局者も亦この期待に背かざる可きを約束せるに拘らず、今や不景氣は昨年十二月前の狀態、いな夫れ以上の慘狀を呈し、國民をして何の爲の金再禁止なりやを疑はしめ、現に社會不安を一層增大したる事實は、後繼內閣の以て大いに鑑むべき前轍であらねばならない。

二　犬養內閣失敗の原因は何ぞ

金再禁止の斷行と其善後策を使命として成立せる犬養內閣は、來る可き臨時議會後に新政策斷行を期待せるが如くなれども、財界時局の緊急性に對して、在任五箇月間何等の爲す所なかりし跡に徹すれば、折角金再禁止を斷行しながら、其目的に對する認識を誤れるが爲に、犬養內閣の存在理由を全然沒却せる觀があつた。即ち金再禁止の目的は收縮政策と低物價とを阻止し、金本位制の爲に產業を犧牲とする政策を改めて、產業及び國民生活救濟の新政策を採る可きであつたに拘らず、犬養內閣は依然として通貨價値の低落を回避するに汲々とし、其イデオロギーに於て民政黨內閣と毫も異る所な

かりし不見識こそ、今日の社會不安を釀成するに至つた主因と認められるのである。低物價と輸出增進に依る國民購買力の增進と生活の安定と云ふが如きは、金本位制が國際經濟界を支配することを前提とする理想論たるに過ぎず、今日の變態時代に處するには、先づ國內的に物價を高め、物の動きと企業とを刺戟し、債權債務の不均衡を矯正する外に根本的對策は存在しない筈である。然るに犬養內閣の當局者は、金再禁止後の今日に於て、物價を再禁止前に還元せしめ、圓の對外價値を三割以上低落せしめながら、通貨供給量を却て減少せしむる愚策に出でた爲め、今日の不安を齎したのである。後繼內閣にして若し犬養內閣と同樣のイデオロギーに立つ經濟政策を踏襲するものならんには、我輩は今日の財界不安は到底救治し得べからざるものと斷じて憚らざるものである。

三　金重きか產業と生活重きか

我輩は後繼內閣の組織者に對し、其經濟政策を樹立するに當り、先づ通貨價値重きか國家の產業と國民の生活重きかを、根本的前提條件として明確にせんことを要望するものである。元來犬養內閣は通貨價値偏重を排し、產業本位の政策を行はんが爲に出現せるものなるに拘らず、其政策を實行する爲に通貨及び公債の增發要求あるに對し、旣發公債の低落と財政の不安を口實として、之を回避する其根本思想は、通貨價値偏重に外ならない。舊平價復歸を目標とし、之を可能と信ずるならば、問題

は自ら別であるが、對米爲替二十五弗見當までの低落と、之を標準とする平價切下げは、今や必至の勢なれば、其結果として對外公債十五億圓が倍額となるも、既發內債四十五億圓の債務半減を考慮に入れるならば、此際財界の危局を打開する爲に五億圓。十億圓の內債增發の如きは、敢て意とするに足りない。即ち後繼內閣は此根本問題に對する正確なる認識と勇斷とを備へてこそ、初めて其出現理由を發見し得るの一事を豫め玆に切言しておくものである。

犬養首相遭難

犬養首相は、數人の人々に依つてピストルで射擊され、遂にその兇手に倒れた。われわれは、內外とも多端の折柄、國家のためにも、政友會のためにも、且つ犬養氏その人のためにも、その急逝を悲しまざるを得ないものがある。

さきに、井上準之助氏及び團琢磨男の狙擊されたるあり、その間、僅かに三ケ月半、今また、同じやうな事件が帝都の眞ん中で行はれたばかりでなく、同時に警視廳、政友會本部、日本銀行等まで襲

擊されたが、しかも今度の場合は、前二回の場合とは聊かその趣きを異にし、一團の人々のなかに、陸海軍關係者が加はつて居たかの如く傳へらるゝ所に、その特異性があり、それだけまた、事件の成行きには重大性がなければならぬ。

素と〳〵直接行動そのものは、どんな場合に於ても否認しなければならぬが、今日の場合、下手人として傳へらるゝ一團の人々は、多くは固い軍規に縛られて、一歩もその外に出なかつたくらゐで、その過去の生活には餘りにも規律正しいものがあり、且つそれが餘りにも純眞なものであつた丈けに最近の世相そのものは、特に彼等の氣持を惑亂したものであつて、彼等の取つたその手段方法は、憎むべく、且つ非難しなければならぬにしても、純眞な氣持を搔き亂した現代の世相そのものには、同じく現代に呼吸するわれわれとして、多少とも責任を分擔しなければならぬ筈である。

民政黨は、數日前既にファッショ排擊の態度を明かにし、十五日に於ける横濱支部發會の席上、若槻總裁は、その事に言及し居り、政友會もまた十六日の議員總會席上に於ては、いづれも政黨政治の擁護を高唱し、一部の人々の陰謀を非難したものである。立憲治下に於ては、議會が政治の中心でなければならぬことは勿論で、その點に於てはわれわれとてもまた政黨及び政黨人の主唱に同意するものであるが、現在の政黨に、それを何處までも强調するほどの資格があるかどうか。

徳川時代の末期には、一時テロ時代を現出したもので、特に將軍お膝元の江戸の街に、それが甚だしかつたが、併し斬り取り强盜、脅迫、押借り、慘殺といつたやうな暴力行爲の横行以外に、當路の人々が盛んに賄賂を取り、その間幾多の請託が行はれ、幕政が腐敗の極に達し、他の一方には、また淫蕩、享樂の氣が當時の社會を風靡して居たことも事實で、現代との間に、約百年の歳月を隔てゝも其處になほ何か一脈似通うたものがあるのは事實で、われわれとして、お互ひに考へねばならぬのは其處である。

しかも、その混迷、惑亂のなかに、なほ慨世の人々が陰かに躍り、それが遂に時代の風潮を作つて明治維新を招來したこともまた明かな事實である。昨今の情勢に、果して、さうした傾向が動いて居るかどうかは知らぬが、現狀の打開に關しては、世の多くの人々が多少ともそれを期待して居るかの觀がある。少い犧牲で、新生面を展開し、其處に國家國民の興隆の途を求むべく、お互に眞劍にそれを考へねばならぬ筈で、首相の遭難は、新らしく國民の前に反省の機會を投げかけたものでなければならぬ。

一大不祥事

八千萬國民を震駭せしむる事件が帝都に起りたるは聖代の大不祥事である。今回の暴行は首相官邸を始めとし、警視廳、内大臣及び侍從長官邸、政黨本部、大銀行等に行はれ、其規模の大なること、組織的のものなること前代未曾有である。暴力に依りて政治的變革を行はんとせるものたる事は一點も疑ふ餘地なく國民をして慓然たらしむるものがある。是實に文明國の恥辱にして昭和の歴史を汚すものである。其由て來る原因を詮索すれば多々あるべきも、如何なる場合にも吾等は暴力を否定する

首相を悼む

幾多の方面に於いて暴行の演ぜられたる中に、犬養首相が兇彈に中りて薨去せるは吾等の最も痛惜措く能はざる所である。内外多難の際、老軀を擎げて之が解決に奮鬪せるは犬養首相の政策に贊する と否とに拘らず、一般に認めたる所である。政黨の腐敗墮落は事件決行の一原因と看取さるれど、犬養首相は多年政界淨化を心懸けたる一人である。政黨を憎むが爲に斯人を暗殺の的と爲せるは餘りに當を得ない。吾等は限りなき哀悼の意を表すると共に、世相の太だ險惡なるを悲む。

軍紀は如何

今回の事件に就いて吾等の更に慨嘆に堪へざるは陸海軍人が兇行に關係したる事である。國民は滿洲及び上海に於いて陸海軍人が赫々たる偉功を奏せるに感謝し、軍紀の嚴肅なるに敬服して居る。然るに其一少部分なるにせよ、陸海軍人が黨を組み、兇行を演ずるに於ては軍紀に缺點あるに非ざるかを疑はざるを得ない。縱令其兇行が忠君愛國の思想に出發するとしても、嚴正なる軍紀の下に養成せられたる將校や下士が法規を無視して直接行動を執るは我陸海軍の面目を汚損するものである。

政機の推移

直接行動に依り政變を惹起するは吾等の嫌忌する所である。原首相の斃はれたる後、高橋氏が內閣組織の大命を拜し、濱口首相が兇變に遭ひし後、若槻氏が之に代りたるは吾等が不幸中の幸として憲政の爲に滿足せる所である。今回も此好先例に依りて政機の推移せんことは吾等の最も希望する所である。只政友會の內部には諸種の勢力相對抗せるあり、一致協力して此困難を乘切るや否やは吾等の懸念する所である。自ら崩壞して憲政を逆轉せしめ、兇行者の志を遂げしむるなからん事を望む。

次の黨首は

高橋臨時首相代理にして政友會の總裁たらば政友會は現狀を維持して行けるであらう。然らざる限り政友會は龜裂を生じ兼まじき危機に直面して居る。吾等は政友會の黨首として床次氏が優れりとか

鈴木氏が善きとか、黨內部の事に容喙するを好まず、又黨外より容喙すべきものに非ずと思惟するも不幸にして分裂の餘儀なきに至らば、野黨との連衡合縱をも考へ、强力なる政黨內閣の組織を圖るべきである。超然內閣や官僚內閣は國難を解決する力はない。

帝都大不穩事件

憂ふべき現下の世相

五月十五日午後五時、恰も颶風のごとく突如として帝都の數箇所に未だ曾てなき大暴行がまき起された。手榴彈およびピストルをもつて首相官邸、內大臣邸その他銀行や警視廳までも襲擊し、犬養首相は遂に重傷を負ひ逝去した。しかしてその暴行は豫め計畫した團體的行動らしく、而も現役か豫備役か本文執筆の際は未詳なれども陸海軍の軍服を着したるものゝ暴行（警視廳發表）なりといふに至りては言語道斷、その亂暴狂態は、わが固有の道德律に照しても、また軍律に照しても、立憲治下における極重惡行爲と斷じなければならぬ。

わけて本年は、明治天皇の軍人に賜はつた勅諭五十周年にあたる。勅諭には、明かに兵權、政權兩つながら悉にせし武士の階級を打破して、古制に則り徴兵の制度を布きたまひし由來を述べ給ひ、凡そ七百年のあひだ武門の專斷であつた大權を悉く奉還せしめ、而して新制のもと陸海軍人となりしものの心得かたを最も懇ろに諭したまへる不磨の聖勅である。掲げられた德目の五ヶ條は、特に軍人として身を修むべき要諦を示したまへるもの、そのうちに軍服を着せるものが政權の移動などにつきて容喙しても構はぬといふが如きことは斷じてない。否、政治問題などには一切關與してはならぬ旨を罰則を設けて入念に軍律をもつて禁ぜられてゐる。吾人は今回の大暴行が政治上の目的をもつて軍服を着けたるものによりて行はれたことを國礎のうへから最も憂慮するものである。

近時、政黨者の墮落から、延いて議會否認論が擡頭し、ファッショ氣分の底流は、極左派と極右派とが或種の理論指導者をもつて任ずる人物によつて、軍人のあひだにも信者をつくれるやに傳へてはゐたが、よもやそんな不心得ものは團體的に策動するやうなことはあるまいと思つてゐた。尤も頭の固まらざる青年學生の輩が、外國の流行を模倣して國礎を危うするの思想にかぶれ、または行爲に現はれ檢擧されるもの數年來多きを加へた。本年一、二月頃の井上氏、團氏暗殺事件前後にも、また昨秋頃にも一部の青年學生等には單純なる動機からテロリズムの實行をもつて政治の革新、乃至國礎の

破壞までも企圖せるものありしやに聞いた。しかしこれらの輩は皆歲若きものゝ無分別、思慮不足のためで、素因は教育の缺陷にありともいへるが、政黨の墮落、議會の腐敗は眼前に展開されてゐる事實である。されば感激性の强き青年子弟をして直接行動の暴擧に出でしめる原因は、その大半を政黨政治家が負はねばならぬことといふまでもない。

しかしながら、陸海軍の軍籍に身を置くものが、政治上の目的をもつて暴力團體的の直接行動に出づるは、いづれの點より觀ても辯護の餘地なき言語道斷の振舞ひといはねばならぬ。たとひその動機において、或は一圖に今の世を慨し、今の政黨に愛想をつかし、今の財閥に憤つたからだといつても立憲政治の今日、これを革新すべきの途は合法的に存在する。短慮にも暴力革命を起すべく直接行動に出づることは、その手段において斷じて許すべきでない。殊に陸海軍の制服を着して直接行動にいで帝都を騷がしたる今回の團體的暴擧は、假令その動機に如何やうのもの含まるゝも國憲擁護のうへからその行爲はこれを嚴罰に處し、またと再び斯くの如きことの繰返さゞるやう國民一般に戒愼しなければならぬ。と同時に吾人は此の際政黨の猛省を促して置く。

聖代の不祥事

國法を擁護せよ

一昨十五日の帝都は何といふ怖るべき巷に化したことよ。夕暗せまる頃殆ど時を同じうして首相官邸、牧野内府邸、警視廳、日本銀行、政友會本部などが、それ〴〵兇漢の襲ふところとなり、あるひは爆彈を投擲せられ、あるひはピストルを亂射され、そのうち最も大なる慘禍は老首相犬養氏の身體に至り重傷を蒙り遂に逝去するに至つた。しかのみならず、東京市に近接せる數ケ所において、變電所を破壞せんとする計畫が、これまた殆ど同時刻に行はれてゐる。

これ實に未だ曾てなき大規模の、治安攪亂の犯行といはねばならぬ。しかしてその加害行爲の對象となれる人物および建築物に見、またその日を同じうして行はれた跡から考ふれば、これら個々の犯行が同一計畫の下に發せることは、殆ど疑ひないやうである。

この驚くべき治安攪亂の犯行は何人によつて行はれたのであるか。吾等は今これを記す自由を有し

ないが、彼等の手によつて撒布せられたと信ぜられるビラには、慨世の言が滿記されてゐるとのことである。しかして若干の人々はすでに犯行者として自白して出たとのことである。即ちこれらの事實から推測すれば、この事件は、要するに時世を慨せる人々が自ら救世の任を一身に引受け、その手段として、かくのごとき兇暴なる行爲を選んだ結果行はれたものと思はれる。即ち彼等はかゝる手段によつて恐怖時代を出現せしめ、もつて當路を脅やかすと共に一般世人の注意を彼等の主張の存するところに引きつけようと企てたのであらう。事犯後、その全部であるか否かは判明しないが、右のごとく多數の自首者の現はれたことは、彼等が自己の生命を賭して事に當つたことを證據立てゝゐる。即ち彼等は殉難者の意氣をもつて大事を起したのであらう。

吾等は衷心よりかゝる事件の起つたことを悲しまねばならぬ。なる程わが國の現狀に對して、不滿を抱かぬものは少いであらう。ことに政界の事相については、心あるものをして顰蹙せしめる報道が多い。一般經濟界もまた世界不況の波濤をうけて、國民生活に壓迫を加へつゝある。短兵急にこれらの事態を見れば、多くの自殺者の心理のやうに、何も彼も破壞して自らもまたその破壞の中に沒してしまひたくなるであらう。

しかしながら人類社會はきはめて錯綜複雜せる機構である。この機構を圓滑に和平に、しかして公

正に立ち行かせることは、實に人類に下された大使命である。何千年の人類の歴史が、いまだかつて黄金世界らしき時代のあつたことを記錄しないことは、すなはち人類世界がいまなほ試練の眞つ只中にあることを物語るものではないか。一夜にして黄金社會を作り出さうなど正に痴人の夢にも等しい。もしテロリズムを以て社會全般の廓清が短時日に出來ると考へれば、それはあまりに單純であるのみならず兇暴なる行爲がもたらす社會的害惡は如何。動機の純なるものはなほこれを忍ぶべしとするも、一度殺伐の風を許されんか、世は兇惡なる徒輩の跳梁に委せられ、治安も秩序もなく、その社會自體の破滅とならざるを得ない。

吾等は歴史あるわが國が、かゝるテロリズムによつて、その國民生活の根底を覆へされることを忍びがたしとする。即ち國法は嚴として國民に臨んでゐるのである。治國平天下は法三章をもつてなほその實を擧げるべしとするも、しかも法を破れるものは、法の命ずるところに從はねばならぬ。國家の機關は、いかなる場合も國法の擁護に任じなければならぬ。吾等は今回の事件を以て、個人的偶發的事件と考へないだけ、これに對する措置において、政府當局の誤らざらんことを望まねばならぬ。吾等は重ね〳〵も今回の事件の發生を、わが國家にとり不幸とするものである。

政府當局はかゝる事件に對していかなる措置を取るであらうか。もとより國に法あり、法によつて

斷ずる以外何ものも無いはずであるが、同時に吾等はかくの如き事件が、嚴正公明に處理せられんことを切望しなければならぬ。昔から臭いものに蓋をして、よい結果を得た例が曾てあるか。勿論他日事件の眞相の明かにせらるべきことは疑ひの無きところと思ふが、もし隱微の間に、これを處理するやうなことがあれば、それは他日再び類似の事件を招く基とならねばならぬ。徒らにセンセーションを起させることは、この際最も警戒を要することといふまでも無いが、さりとて公知せしむべき事實を隱蔽することはいふべからざる治安を人心に與ふる結果を來し、それより來る社會的危險は極めて寒心すべきものがあるであらう。この間に處する政府當局の深甚なる考慮と、賢明なる判斷とは、國民全般の異常なる關心を以て期待するところである。

敢て國民の覺悟を促す

頻々たる暗殺の連續として、犬養首相が、遂に陸海軍人の一團の爲めに、兇手に斃れたことは、吾々が、國民と共に眞に悲憤痛恨に堪へざる所である。日本に於ては、今日まで、首相其の他、顯要大

官の遭難決して珍らしいことではない。然かし、今日までの事件は、何れも所謂暗殺の範圍を脱せざるものであつて、不逞の徒が、或は停車場に、或は邸宅の出入、其の他途上等に於て、隙を窺つて、兇行を敢てしたものであるが、今回の事件は、白晝公然として首相官邸に押し入り、然かも陸海軍將校等隊を組んで兇行に及びたりと云へば、暗殺と云ふよりも、一種の虐殺であり、虐殺と云ふよりも革命の豫備運動として之れを行つたものと觀なければならぬ。其れは單に首相官邸のみならず、牧野内大臣邸、警視廳、日本銀行、政友會本部等にまで、同樣の兇行が加へられた事實に徵しても、左樣云ふことが出來る。此の意味に於て、事件は眞に重大である。昨年來、軍人間に政治を論じ、革命を云々するものあり、事態容易ならずとは、吾々が、屢々耳にせる所であつた。然かし、吾々は、斷じて其れを信じなかつた。軍隊及び軍人が、政治に容喙することは、直ちに軍隊及び軍人の潰亂頽廢を意味するものであり、羅馬、希臘の昔を論ずるまでもなく、日本に於ても、史上の事實を歴々として指摘すべく、其の間の事實に鑑み玉ひ、明治大帝が、軍人に對する勅諭に於て『兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はず政治に拘はらず』と戒められたるその大精神は、日本軍隊と軍人との間に徹底し、苟も其れに違背し奉つるが如き不逞の徒ありて、日本國軍の據つて立つ精神的基礎に斧鉞を加へんとするが如きことは、あり得べからずと思はれたのみならず、上官の命は朕が命と思

へと宣ひたる其の精神を一貫して、命令と服從との縱の關係に於てのみ、日本國軍は、嚴肅にして尊貴なる存在であり、若し、軍隊と軍人の間に、政治を論じ、時事を語りて、或は少壯佐尉官、或は下士と云ふが如く、横の關係が、一旦發生するに於ては、帝政末期、革命當時の露西亞に於けるが如く遂に其の風潮が一般兵士間に浸潤し、軍隊と軍人とは、豺狼よりも嫌惡すべき存在となり、國軍先づ自から崩潰することは必然である。此の間の消息は、我が軍隊と軍人との間に遺憾なく諒解せられたる所であつて、苟も軍人中より、時局に對して不穩の行動に及ぶものを出だすが如き、到底有り得べからず、と推察した爲めである。然かし、不幸にして吾々の所信は裏切られた。陸海軍人が、首相官邸に押し入りて、老首相を虐殺せるに至つては、實に言語道斷の沙汰と謂はねばならぬ。此の事件が如何なる計畫と組織との下に行はれたか、其の詳細は、後日の取り調べを待たねばならぬけれども、霜を踏んで堅氷至たる。既に其の歴々たる徴候を示めせる以上、軍部首腦者は勿論、眞に軍人として國軍の中心として、邦家皇國の重きに任ぜんとする人々が、先づ國軍の健全なる存在の爲めに、此の間肅然として相戒むる所あらんことを望まねばならぬ。同時に吾々は、全國民に對し、此の危急存亡の秋に際し、毅然として其の進退を過まることなく、中外に向つて、其の政治的國民としての識見と判斷との公明を示めし、今回の如き不祥なる事件の善後を策して、寸毫の遺憾なからんことを望むも

のである。何人も知る如く、近來右傾的運動の勃發に乘じ、左傾運動者輩が、國家民族の假面を被むり、フアツショと云ふ流行語を假り來たりて、動もすれば國民を煽動せんとするあり、或は政治的野心家輩が、其の政權欲を遂げんが爲めに、陛下の軍隊と軍人とに誘惑の手を延ばさんとするあり、薫蕕を甄別し、玉石を分つこと必ずしも容易ではない。然かし、國民の進むべき政治的進路は、坦々として尙ほ國民の眼前に展開されて居る。其れは立憲代議政體である。明治大帝が、不磨の大典として吾々國民に遺し玉へる帝國憲法の規定する政治樣式其のものである。何人と雖も、今日の議會、今日の政治、今日の選擧、今日の政治家に滿足するものはない。其處に多くの腐敗があり缺陷があり、不備不足があることは事實である。にも拘はらず、故に吾々は、直ちに獨裁政治に還へらねばならぬと云ふ理由はない。フアツショ運動に訴へねばならぬと云ふ理由はない。獨裁政治が、今日以上の幸福を國民に與ふべし、と想像し得べき寸毫の根據もない。フアツショ運動が、日本を救ふべし、と信じ得べき何等の根據もない。一體、今日の危急なる情勢を迫出せる實質上の原因が如何なるものであるか、國民心理上の原因が如何なるものであるか、之れを日本國內に求むべきものが幾何であり、國外の影響に求むべきものが幾何であるか、普選の明白なる失敗が、幾何の影響を吾々に招來したか、其の救治の方策如何、問題は勿論簡單ではない。けれども吾々の、政治的進路は、明白である。此等の

過誤缺陷を補正しつゝ、立憲代議政體の大道を靜かに進むまでゞある。然かも今日に於ては、此の大道を靜かに進むことすら、決して容易ではないやうである。玆に於て吾々は、敢て政治家と言はず、官吏と言はず、全國民に對して、一死報國の一大決心を以て肅然として此の難局に處するの覺悟を要求せねばならぬ。國民に對する挑戰に向つては、斷々乎として之れを排擊するの堅き決心を懷かんことを要求せねばならぬ。

事件の責任如何

今回の事件に對し、檢察當局が、關係者が軍人たるの所以を以て、全然傍觀の立場に立たんとするは、當然であり、且つ賢明である。國民も亦た、檢察當局と同樣の立場に於て、其の成り行きを傍觀せんとするものである。唯だ一事、吾々が指摘せねばならぬことは、此の事件は、昨秋よりして明白に豫見せられたる事件であることである。その豫見せられたる事件を傍觀して今日の結果を招徠した責任は何人にありや。檢察當局なりや、政府當局なりや、將た檢察當局と、政府當局との事實に於て如何ともすべからざる軍部其れ自身なりや、國民は嚴肅に其れを知らんことを要求する。

後繼內閣と軍部の關與

今回の兇變について、イギリスのデーリー・テレグラフ紙はその社說において「反動派は陸海軍將校らから支持を受けてゐる模樣である。かれらの政治目的は超愛國的軍國主義である以上、今度の兇變後といへども、日本の眞の利益と軍國主義者の野心との間に起る鬪爭は、依然解決されずに殘るであらう」と述べてゐる。事情に十分の認識をもたない外國人としては、或ひはかゝる論斷を下すのも無理からぬところであらうが、しかし今回の兇變が海軍中少尉六名、陸軍士官學校生十一名によつて行はれた事實を知らば、われらもまた多少これを憂慮する。

陸海軍人が愛國的であり、或ひは超愛國的であることは間違ひのない事實であつて、建軍の本義は全くその點に存するのである。けれども「愛國」は必ずしも陸海軍人の獨占するものではなく、心ある日本人にはすべて共通普遍の特性である。したがつて總ての日本人が、その祖國愛から一切の現狀を憂慮してゐることは、掩はれない事實である。けれどもこの祖國愛をテロリズムの形式において現はすことは、ひとり軍人に限らず、一切の日本人に對して嚴に禁ぜられてゐるところである。しかるに今回の兇變が「國の護り」を本義とする軍人の手に行はれ、かへつて國家社會に大なる破壞を與へたことは、返へす〳〵もわれらの遺憾とするところであつて、直接責任の局にある陸海軍兩大臣が、上は至尊に對して恐懼を言上し、下は國民に對して謝したことは當然の措置といはねばならない。たゞこの重大なる責任感から、次ぎの政局の動向について進んで關與しないだけの決心があるであらうか。換言すれば、今回の不祥事件に關する責任觀念が今後の政局にも押し及ぼされてゆくであらうか。

現在の政黨政治乃至議會政治をそのまゝ是認する人はないはずである。いはんやこれを禮讚する人にいたつては皆無とすべきであらう。だからといつて、直ちにこれを否認して他の政治形態を求めることは斷じて許されないところである。近來議會政治を否認し、ファッショへの動向が漸やく表面的に現はれて來たことに對し、既成政黨もまた漸やく覺醒し、政黨自らの淨化と議會政治の向上を眞劍に考へるやうになつて來たのは、疑ふべからざる事實である。議會政治を改善向上せしめ、かくして議會政治を守ることは、落命前の犬養首相の固い決意であつたと同じく、若槻民政黨總裁の雄々しい覺悟でもある。かゝる事情の下において、かねて軍部一部にその希望と計畫ありと傳へられてゐた協力內閣、またはファッショ化せる强力內閣の說を、今日においてもなほつゞけてゐるものとすれば、

それはまだ〳〵考慮の餘地が殘されてゐる。いふまでもなく軍部刻下の要務は、今回の兇變に對して深くその責任を感じ、軍紀軍律の確立とその內部統一に努め、軍部本來の使命にかへると共に、國民の疑惑を招くやうな態度を慎まねばならぬことである。それにもかゝはらず政治的意圖を多分に含めて進退することは、軍部のために圖つて決して賢明な策とはいはれない。

次ぎの政局がいかなる內閣によつて擔當せらるべきかは、問題にならぬほど明瞭である。すなはち鈴木政友會新總裁を首班とする政友會の延長內閣であるべきことは當然である。政友會みづからがこれを期待し、かつ確信しつゝあるはもちろんであるが、唯一の在野黨たる民政黨においてさへ暴力による政變を否認し、政友會內閣の再現を力說してをり、一般財界人も全く同じ見解を招いてゐる。すなはち輿論は一致してゐる。力をもつて强行する政治といふことは、一時成功することがあるけれども、やがてその反動といふことをも考へねばならない。國家は永遠のものであるから、一時的の便宜によつて本道をふみ外すべきものではない。

西園寺老公が御下問に對してどんな奉答をするのか。政局の上に殘された唯一の謎はこれである。けれども立憲政治の理法からみても、政界の現實からみても、西園寺老公の奉答が世人の意表に出るとは信ぜられない。兇變に驚きあはてゝ立憲政治の軌道を踏はづすことは、テロリストに乘ぜられたことであり、文明國民としての資格を放棄するものであり、やがてまた立憲政治を轉覆するものである。賢明なる老公は必ずやこれを知悉してゐる。たゞ老公をめぐつての種々の策動が行はれるであらうが、われらは軍部本來の使命とその權威のために、これらの策動の中に卷きこまれないことを希望したい。

名古屋新聞

社會不安と言論の取締

櫻田門外事件の發生した時、當局の言論取締りは、全く血迷ひの有樣であつたが、今回の不祥事件に對しては、可なり大膽に報道の自由を許し、當局の言論取締り方針は、相當時宜に適してゐたかに思はれぬでもない。しかしながらこれを總體的に見るときは、全國的不統一のありたること、及び事件から受けるショックのために神經過敏になりすぎてゐたうらみが多分にあつた。

社會的不安を釀成するやうな事件が發生した際、その事件の內容を秘密にせんとする時は、いはゆる流言蜚語は限りなく行はれて社會の不安は停止するところなき有樣となり、事態をしてます〳〵重

大化せしめることは、あまりにも明らかなところである。今回の不祥事件に對して、內務當局の取つた方針は、大體において前記の事情をよく察知して、よろしきを得たものであつたが、部分的には相當遺憾の點あるを免れなかつた。今回のごとき事件發生の際における言論の抑壓は、社會的不安を一層深大ならしめる最もおそるべきことであるが、また平常時における言論取締りが峻烈を極めることあらんか、それが社會的不安を發生せしめる重大なる素因をなすものであることを知らなければならぬ。現前の社會不安は、政府の言論取締りの失敗が、一つの原因をなすものであるといふも、けつして過言ではなからう。

一九二二年、ドイツのラウテナア外相が暗殺された前後には、わづか二ケ年足らずの間に三百三十數件の暗殺事件が行はれたが、ヒットラーの愛國運動が次第に勢力を伸長し來るや、今まで盛んに行はれてゐたテロリズムはぴたりと中止してしまつたのである。それは抑壓されてゐた愛國精神がヒットラー運動のために始めてりゆう飲をおろした結果であつて、わが國における直接行動の横行も、その一因は言論の抑壓にあると見て間違ひない。

最近、發賣禁止、發刊禁止の處分を受ける雜誌、單行本の殆ど全部がファシズムに關するものであり、それはかつてない件數に達してゐるといはれる。私たちはこうした言論の取締り方針に對して斷

じて贊成し兼ねる。もつと大膽に言論の自由を保證しなければいけない。言論を抑壓した結果として直接行動を頻發せしめるやうなことがあつてはならぬ。今後當局は言論取締り方針を一變すると同時に、今回の不祥事件に對してもできるだけ速にその眞相を發表すべきである。

北海タイムス

帝都爆彈事件

白色テロの横行、連續的帝都の不安は、またしても重大事件の突發となつた。不逞の徒が白晝隊を組んで帝都を横行濶步し、犬養首相をその兇手に仆し、首相官邸、警視廳、內大臣邸、日銀、政友會本部等を片つ端から襲擊さるゝに至つたことは、實に前代未聞の大椿事である。首相及び要路の大官が襲擊せられたことは今日まで屢々あつたが、何れも思慮なき一介の青壯年が血氣に逸つての一時的出來事であり、未だ今回の如く、徒黨を組んで大規模な襲擊を行つたことはなかつた。しかも今回の事件は、陸海軍將士の手によつて成されたところに、全く從來の要路暗殺とその趣きを異にして居り最近嵐の如く擡頭し來れる彼のファッショ運動に想ひ到れば、吾人は戰慄を禁じ得ないのである。

犯罪の動機、その目的、犯人の素性等は、こゝに詳かにし得ないが、如何なる場合と雖も吾人は直接行動を排撃する。世相の惡化、政黨の腐敗、議會政治の墮落は、往々にして極端なる言動に出る者を生ぜしめる。しかしこれ等の人々は、全く立憲政治の何ものたるかを辨へざるの致すところである元來立憲政治の妙味は、民意によつて一切の政治を行ふところに存する。從つて政界の淨化も亦民意に基いて爲さるべきものである。然るに若しも白色テロが横行し、これによつて政治が左右さるゝことゝなれば、民意は暴力に抑壓せられ、恐怖時代を現出することゝなつて、多數國民の利益は完全に蹂躙さるゝのである。故に政治の現狀に慊らぬものありとしても、これが革正は飽まで民意に基いて爲さるべきものであつて、決して直接行動によつて、これを行ふべきものでない。

×

何はともかく今回の如き不祥事を惹起するに至つたことは、洵に遺憾の極みであり、特に内外多事の折柄犬養首相が兇手に仆れたことを返すがゝも遺憾に思ふ。政友會を率ゆる犬養首相は、畏くも陛下の御信任と國民の絶對的信賴とにより重大なる時局を擔當し、組閣以來交々到る内憂外患に對し、ともかくも機宜の措置をあやまらず、國民の負荷に背かざりしその功績は、推賞に値するものがあつた。しかも組閣以來始めて犬養内閣の抱負經綸を如實に示すべき臨時議會を前にし、突如兇漢のために仆れたことは、たゞに個人として哀悼の念に堪へざるのみならず、國家のため、特に痛惜措く能はざるものがある。

×

同じく兇漢のため曩には原、濱口兩巨頭を失ひ、今また犬養首相を失ふ。かくも頻々と國家的人材を兇手に奪はるゝことは、返す返すも遺憾なことである。國民は一致協力して、その因つて來る所以を究明し、その原因を芟除して、更にかゝる不祥事を繰返すことなきやう精進せねばならぬ。最後に祖國日本を守るものは、決して暴力にあらざることを提唱したい。

河北新報

非常時に於ける特別の考慮

人心を壓する不安を取去るために、一日も早く政局に安定を與へる事をしなければならぬ時であるが、どんな方法が政局の安定を可能にするかの問題となると、環境極めて複雜を呈してゐるので、考

へ得られるところの方法に對して是非の判斷を下すことは容易でない。

常道論で行くならば、新たに出來る內閣は犬養內閣の延長であつていゝ、いなさうでなくてはならぬ。即ち、犬養內閣の崩壞が、政策の實行不能やその他の失態に基いたものでないこと、衆議院に絕對多數の與黨を有する點で變化ないこと、公約せる政策はこれから實行の緖につく順序になつてゐることと等々、首班者は代つても政友會內閣を替へるべき理由は少しもないのである。從つて、原內閣の延長として高橋內閣が出來たやうに、又濱口內閣の延長として若槻內閣が出來たやうに、前例によつて、新總裁鈴木氏を首班とする政友會內閣の出現によつて政變收拾が出來れば、それで常道論に當てはつて行くことになるのである。が今眼前にさし逼つてゐるのは常道論の適用不適用といふ形式上の問題であるよりも、端的に政局を安定せしめねばならぬとする事實上の問題である。いふまでもなくいま非常の場合であつて、局面收拾に對症療法式の手心を必要とする時である。この環境に即して考へるとき、常道論による定石的方法によつて、政局に所期の安定をもたらし得るかどうかの事實問題になつて來ると、俄かに判斷は下せないのである。一方に於ていはゆる非常內閣說の唱へ出される理由はこゝにある。

絕對多數を握る政友會が局に立つて以來、大した失態なく存立してゐる以上、これを措いて政局の

收拾を云々するのは無用のことに屬する如くではあるが、多數黨に信賴して、それで萬事解決となれない所に非常時時代の姿がある。非常時內閣は好んで求むべきものではないが、しかもこの出現に對する要望が國民の一方の聲として存する事實は之を看過する譯に行かぬ。勿論、非常時內閣といつても、一部偏見者の間に夢想されてゐるところの獨裁的なるもの、乃至は官僚內閣の再現を意味するものの、さうした認識不足に出發するものは此處に我等の關するところである。こゝにいふ非常時內閣とは、立憲の本義を失はざるもの、寧ろ擧國一致內閣といふ方が適切であると思ふのであるが、之に對する要望が國民の一方に存してゐるのを否定し得ない限り、且つかうした要望が偶然に生じたものでなく、相當の根據を持つものであることも否定できない限り、局面收拾の方法を考慮する場合、この點への考察を省略するならば不用意に陷ると思ふ。我等は擧國一致內閣を出現せしむることが、政局安定の方法として最善だとは無論いはないが、政局安定の方法の一つとして、考慮に値ひする一方面であるといふことを言つておきたいのである。

論ずるところ、犬養內閣の次に來るべきものは、その延長の政友會單獨內閣か、又は政民の聯合を基礎として構成される擧國一致內閣か、このいづれかであるべきだと考へられるのであるが、常道論に從つて前者を取るか、又は後者を取るか、この判斷は非常にむづかしい。新たに出來る內閣にして

若し人心の不安を安定せしむるに足らないものであつたら、それこそ問題である。この非常の時において最も大切なることは焦燥せる人心に安定を與へることであり、而して、このためには國民の信頼を固くつなぎ得るだけの力を持つ內閣の成立することが絕對的の要件である。この要件が果して政友會延長內閣によつて滿たされるか、將た擧國一致內閣が之に該當するものとなるか。事の當否は直ちに國家の安危にかゝる問題である。後繼內閣奏薦者の一層用意周到ならんことを切望する。

爆彈事件と世論

恐らく近年の國內問題として、今回の帝都爆彈事件ほど、國民に異常のセンセイションを與へたものはあるまい。犬養首相の兇死、國家樞要機關の襲擊、陸海軍將士による犯行、一種の政治革命を敢行せんとする計畫等々、眞に近年稀有の一大事件である。從つて、この事件が國內人心を激勵し、今後の政治、社會一般に及ぼす影響は、測り知るべからざるほど深刻である。事件の性質を吟味批判して、轉換日本の動向を明察することはこの際最も必要である。

×

いま、各方面の意見を綜合するに、今回の事件が、現代政黨政治の腐敗墮落に憤りを發したる點においては、ほとんど一致共鳴してゐる。言論界の權威たる東京の某紙は、十七日の社說において、『計畫の規模內容については未だ十分に知るを得ないが、遠因が、現在の政黨政治の弊害を憤慨するの餘りに發したることだけは想像出來る。政黨政治の弊害が近年ことに甚しいのはすでに定評の存するところで、從つて、青年人士が、一面忠良の國民として何等かの非常手段を用ゐても、これを打破せんことを考へるその純情は諒とすることが出來る』といひ、大阪の某紙は『政黨に對する一般の心證はフアツショを考へてゐる人でなくとも、極めて惡いのである。事實において、政黨が黨利黨略に沒頭して國家を思はざる有樣は、近頃に至りてます〳〵眼にあまるばかりである。いまの議會と政黨を直ちにどうすることも出來ないことを知つてゐても、さりとて、政黨を今日のまゝにして置いてよいと思ふものは一人もないであらう』といつてゐる。政黨の實情、まさにかくの如しである。議會政治の理論は立派であり、わが國の政黨は、四十年の歷史を經て外形だけは整備してゐる。しかし、四十年間の政黨政治において、一部の財閥富豪はこれによつてその利益を伸張したかも知れないが、國民大衆の生活は、果してどれだけ保證確保されたか。ことに、近年における農村その他一般大衆の生活は

極端に窮乏逼迫してゐる。もちろん、これは現代經濟組織の缺陷、及び世界的經濟恐慌の影響によることも多く、萬能ならざる政黨が、一朝一夕にして、根本匡救策を樹立し得ることも出來まいが、政黨が、その根本策を樹立しようとすることに對して熱意を缺くばかりでなく、大衆の生活苦にはほとんど傍觀の態度をとつて、一部財閥、資本家の救濟策ばかりに浮身をやつし、黨利黨略本位ばかりの政治をやつてゐることに對しては非常に國民の不滿憤激を買つてゐる。この不平不滿の氣は、鬱結して現狀打開の風潮を孕み、社會の底に目に見えぬ暗流を生みそれ等が表面化して所謂ファッシズム的の運動となつて現はれるに至つたものである。今回の爆彈事件がその一動機を政黨政治呪詛に發してゐる點においてたしかに國民の共鳴を得てゐる。

×

しかし、如何に現代の政黨政治が腐敗墮落してゐるとはいへ、暴力的直接行動によつて弊害を除去せんとする手段は遙かに國民の首肯し得ないところであらう。非常時には非常手段を要すといへばそれまでであるが、そこが、國民として最も考へねばならぬところである。憲法治下において、國法を犯す直接行動は嚴に禁ぜられてゐることは改めていふまでもない。それを犯してまで、身をもつて國難打開に當らんとする意氣は大に尊ぶべきであるが、そのために、國法を紊すの行爲を是認することは出來ない。これについて某紙は『今日の政黨政治については、これを論難非議すべき幾多の理由がある。しかし、わが大日本帝國憲法が儼として存し、議會政治を認めてゐる以上、これが、運用の圓滿と國政上最大の効果を期するためには、主義政策によつて相對峙する政黨の形式による以外に途はないのである』と論じ、また某紙は『純情のほとばしるところ、遂にかくのごとき直接行動に及び、明治天皇ひつ生の御偉業とも申すべき立憲政治の根本までも破壞することがあつては、いはゆる玉石ともに碎くものである』といつてゐる。陸軍の輿望を一身に集めてゐるといふ荒木陸相、及び大角海相が『今回の不祥事件については、上陛下に對し奉り恐懼に堪へず、また、國民に對しても申譯なき次第である』と語つてゐるのも、深く事態を憂慮したためであると思はれる。

×

政變の結果は、一日も早く後繼內閣が組織されなければならないが、現在までには、政友會單獨內閣といひ、擧國一致內閣と稱し、情勢は混沌として歸一するところを知らない。しかし誰人によつて內閣が組織されようとも、現下の多難なる時局に對して充分時代人心の動向を明察し、眞に、一大決心をもつて諸政の改革に當らんことは國民すべての希望である。

東京事件と人心の動き

東京において勃發したる極めて好ましからざる出來事は、その實行に當れる人々の地位と、その集團的威力とのために、強き衝動を一ぱん國民に與へてゐる。我等はいま、その何處より起り、何を目的とせる行動であつたかについて詳說するだけの素材と自由とを持つてゐない。然しながらたゞ一つ極めて明白なる原因としてうなづかれることは、舊時代の思想に生きる政黨が何れも眞に國民の支持によつて國難に當るだけの見識と實力とを缺いてゐると云ふことである。それは犬養氏自身にとつても心配の種となつてゐた。されば犬養氏は政黨も、選擧の仕方も改めれば必ずよくなると力說し、且つその改め方に着手してゐたのである。然し、それを期待されるには、政友會は餘りに暗き過去を持ち、民政黨は餘りに弱き力を持つてゐた。されば思慮に乏しい人々は腕づくで政黨とその支持者とを一擧に襲ふことにした。その結果と、あと始末とについて、どんな理想と計畫とを持つてゐたかは今のところはつきりしてゐない。

我等の批判の對照としてのこされてゐることは、こんな亂暴なことを何が（「だれが」では無い！）させたかと云ふことである。それは外でも無い、一つは理想の貧困と云ふことである。今一つは現實を把握してゐなかつたことである。成るほど、國家のために身を棄てゝ惡者（と信ずるほどの人間）を襲ふと云ふことはすばらしい氣構へである。だが、もし、かりにこの人々が六十年前の新日本建設の大理想に想頭して「廣く知識を世界に求め」「萬機公論に決する」ことが今尙ほ、ほんとうに行はれてゐないことに氣付き、そして「國憲を重んじ國法にしたがへ」との明治大帝の大御心に服することの、いかに大切なことであるかを考へたならば、あれほどの大仕掛けの亂暴はしなかつたのでは無からうか。また、あの亂暴ぶりからは破壞の一面だけが見られて、建設の一面がわからないが、あの破壞ぶりには今の世と人心への洞察が足りないと思はれる。少し極端な言ひやうだが、全東京を暗黑にしても尙ほろうそくと云ふものがあり、目ぼしい人々を起てなくしてもあとに後繼者と云ふものが必ず出る。換言すれば、自由と正義とを尙ぶものは、少しくらゐ先輩が倒れたり、おどかされたりしても、くらやみに光を求めるやうに必ず自分達の據るべきほんとうの中心勢力を求めるものである。こゝを見拔かないと、とかく强いものが獨りよがりになり勝ちである。どんな英雄でも、その時代の人心をうまく捕へないものは、三日にして亡び一代にして倒れるものである。

亂暴をした人々はまた、今頃八ケましいファッショとかナジスとか—ムッソリーニとかヒットラーとか—の氣持乃至やり方に習ひ、且つその贊成者の多いことをも少し考へた上で、行動に自信を强めたのではあるまいか？　もし、さうだとすると少しばかりはやまつてはゐなかつただらうか。ファッショやナジスの運動の、いゝ、わるいを今こゝで兎や角云ふのでは無いが、どつちにしてもその國々ではツきりした理論を大衆に訴へ現實支持を得てゐるのである。決して强い者だけが力づくでやつた仕事では無いのである。イタリアのファッショについては多く言ひふるされた。試みにドイツのヒットラーについて云ふならば、彼の言說には常に會社員や先生や大學生が——即ち、階級鬪爭一點張りで萬事を解決するより以上に、ドイツ國民の運命を打開する現實の途をぢつと考へてゐる人々が——眞劍になつて聽き入つてゐたのである。日本の新聞には得票數だけしか傳はつてゐないが、ドイツ人に云はせると、其質が眞の次の國民として賴母しい人々で充たされてゐたのである。その心靈に叫びかけるヒットラーがまた恐ろしい雄辯家なのだ。煽動家の雄辯でなくて理想と信念とに生きる意志の人の聲なのだ。それでこそこの運動が、ヒンデンブルグ大統領の彈壓の嵐の中にも衰へない所以である。

そこで話は日本にもどる。東京事件はほんとうに悲しい出來事であつた。もし、實行者が他日冷靜に、そして深く考へるならば「英雄の悲哀」を體驗することだらう。それをのちに來る人々にくりかへさせてはいけない。眞に國を愛する者は先づ自らよく考へて、一世をひきゐる理想と固き信念をつかまねばならぬ。キリストに四十日の野の苦しみあり、日蓮に難行の準備時代があつた。そして、使徒とその信者とを得て百世に心を傳へ子を得た。先づ考へ次に叫び、その正しきを行ふものは必ず勝つ。一人をたふしてわれ勝てりと思ふものは倒れたる一人からさへも審判を受くべきすきを持つてゐる「呼びかへして來い、わしが話してやる！」あゝ、この木堂の一句、こゝにおいてか千鈞の重みがあるのである。

犬養首相の兇變

內外重大の時局に際して全國民に一大衝擊を與へたものは犬養首相狙擊の報である。暴力者の一團が白晝首相官邸に闖入し、拳銃をもつて前後より老首相を射擊して重傷を負はせ、首相はつひに絕命するに至つたのである。のみならずその一味は幾隊にか分れ、牧野內大臣官邸、警視廳、日本銀行、

政友會本部等をも襲撃し、爆彈を投じて多數の負傷者を生ぜしめたと傳へられてゐる。關係者は全部自首したとのことであるから、事件の動機原因等は近く明かにされるであらうが、理由の何たるを問はず、首都の中央において首相を始め重要當路者に對して暴力的に危害を加へんとするなど、まことに昭代の不祥事として寒心に堪へざる所である。

犬養氏は誰も知るわが政界のヴェタランである。憲政の先驅であり、議會政治の開拓者である。藩閥の背景もなければ官僚生活の惰力もなく、民衆を代表する生一本の民人的政治家として終始して來たのである。恐くはこれが故木堂氏の眞生命であり、この立場において明治以來藩閥と闘ひ官僚と闘ひ、半世紀にあまる政治生活の比較的不遇の觀があつたに拘らず、政黨界の第一人者として常に重きをなした所以であらう。この意味において犬養氏は全く代表的の政黨政治家であつたといへる。政黨政治否認の聲は近時やうやく高くなり、故首相に取つてはまさに多年の蘊蓄を傾倒して議會政治の本領を發揮すべき時である。しかもその機を得ず中道で非業の最期を遂げたことはまことに遺憾といはなければならない。

犬養氏は一時政界を引退したと傳へられてあつたが、政友會更生のためといふ觸込でその總裁に迎へられたのであつた。昨冬若槻内閣の後を承けて所謂單獨内閣を組織し、金輸出禁止を決行し、總選

擧に依て壓倒的多數黨となり、對外强硬政策に構へて滿洲事變および上海事變に處し、近く開かれる臨時議會に政友會政策の一端を提案しようという段取である。内相問題滿鐵總裁問題等の人事行政においてとかくの批評はあつたが、組閣以來僅に半歲、爲政上の清算は既往よりは今後の成績に多くを徵すべき情勢にある。首相の死に伴ふべき政局の波動及内外の國務におよぼすべき影響を考へ、殊に與黨内部における軋轢關係を考へると、この一大中心を失つた損失は全く甚大である。敬悼の至りに堪へない。

いかなる事情が存在するとも、直接行動に訴ふる非は今さらいふまでもない。しかも不幸にも近時かやうな兇行は餘りに頻繁で、故濱口首相のいたましき前例は更なり、近くは井上前藏相といひ團琢磨男といひ、政界財界の有力者が引續きその犧牲となつてゐる。餘りに無茶であり亂暴である。人と人との間には意見の相異もあるべく、感情の衝突もあるべく、利害關係の相反するものもあらう。しかしそれ等が互讓融和され得る所に人間の靈長なる所以と、人間固有の道義とが存在するので、文明國家の目標はこれが極致にすゝめることに外なるまい。直接行動に訴へずとも意見を表明論究する各種の機關は備はつてをり、また不法非違の輩は國家の法律がこれを制裁してゐる。自ら手を下すものは國法を蔑にするもので、かりにその動機に善良の分子があつたとしても、畢竟國家秩序の攪亂者で

あり、公共平和の破壞者であるに過ぎない。

政治要人や經濟要人を暗殺することに依て局面の一大變革を望むとあらば、これまた甚だ淺薄の考である。革命と變亂とに終始惱まされてゐる西洋諸國の如きはいさ知らず、善美な國體と光輝ある歷史とを有するわが國においてはかやうな無謀な企に依て本質的に動かさるべき何物があらうとも思はれないからである。たゞかゝる兇行が絶へず繰返されゝば、民心におよぼす影響は甚大で、わが民族固有の美德を傷け、國家の面目を傷くることも決して小でない。殊に今日の如く文字通り擧國一致の精神と行動とが肝要なる時に方つて、かういふ不祥事を出來するはかさねがさね遺憾の至りである。

犬養首相の薨去

五月十五日午後五時廿分頃永田町首相官邸應接室において狙擊された犬養首相は、同十時五十分昏睡狀態に陷り十一時三十分遂に薨去した。傳へらるゝところによれば首相は流石に多難なる政界を四十餘年憲政擁護のために奮鬪して來ただけに七人の暴漢の銃口の前に立つて冷然と「話が判らなかつ

たら擊て」と一喝したさうである。之は英雄傳中の一挿話ともいふべく、老政客犬養首相としてありさうなことであり、或ひは其最後を飾るに足るべき劇的場面であつたかも知れない。犯人は現在の議會政治を否認するファッショ一味の者であらうと察せられるが夫にしては相手が相手だけに英雄崇拜主義の一端を此一事において示現したと觀られぬでもない。ファッショ運動者にとつてはもつけの幸ひであつたかも知れないが、われら國民にとつては迷惑此上もないことである。一體犬養首相を殺してどうしやうといふのだ。

犬養首相個人を殺して夫で今日の社會組織が一變するとでも考へたらそれこそ認識不足であらう。しかし政府としても考へなければならないことは、此の種の運動が何の爲めに起つたかといふことである。ファシズムの擡頭は第一には最高資本主義の統制に弱點があつたことである、第二には極左的傾向の擡頭と一方に最高資本主義に對する不滿、ならびに無產階級の暴力的發動に對する中間階級の恐怖心理から來てゐる。今度の不祥事件に連座する犯人達はおそらくかういふ中間階級の人達であつたゞらう。しかしそれによつて何が出來る。なるほど歐洲大戰はセルビヤの一青年が發した拳銃の一發から勃發したといはれる、表面の事實はさうであつたかも知れないが、それはたゞ口火を切つたゞけのもので實をいへば拳銃の一發がなくとも大戰が起るべき必然性が醸成されて居たのである。現在

の我が國にはなんらさういふ國内的事情はない。政黨は民衆の豫期したよりも無力だとはいひながらこれを強く正しく育て上げるのが民衆の當然爲すべきところではなからうか。

國民の中から首相を狙撃する連中が出るといふことは一面議會政治への不信であると共に一面國民自身の立憲的教養不足を示すものでもある。議會政治は、民衆を政治的能力ありとした前提から出發した政治形態であらう、普選も婦選も端的にいへば此の前提から來てゐる。ファシズムなるものは、民衆にはそれほど政治的能力はないといふ認識のもとに成り立つたものであらう、かういふことを判斷するものは常に資本家と勞働者の間に挾まれてゐる中間階級である。今日の議會政治に對して不信の聲が高まりつゝあるのも此の階級の認識に基づくものであり、それにも相當の理由はある。民衆が政治的に無能力者だと觀られたのだ、もつと露骨にいへば馬鹿にされたといふことである。犬養首相一人を殺せば民衆はどこにでもひきずつて行くことが出來ると考へて居ることである。さうまでお安く見られた民衆こそいゝ面の皮であり又一面反省すべきことであらう。

われらは、議會政治を守り立てゝ行くことがわれらの生活を擁護することであり、强權による支配は結局刀と刀、銃砲と銃砲との抗爭となるものであり、この形勢が發展すれば戰國時代のやうな物騷極まる世相が展開されないとも限らないと信ずる、さういふ國家にどこに民衆の生活擁護があり得るか。數人の警官によつて保護警戒されて居る一國の總理大臣犬養毅氏でさへ暴力の前にその生命をすてなければならなかつたことでも判る筈である。かういふテロリズムの横行は國家の不祥事であることは勿論、民衆生活に對する大脅威である。われらはこゝに謹んで犬養首相の薨去を弔ふと共に、政治家においても議會政治を硬化せしめず、時代と共に、否時代に先んじて民衆をリードして行くだけの覺悟が必要だと信ずる。又民衆自身も今回の不祥事件によつて反省すべき多くの教訓を獲たであらう。

犠牲を高價ならしめよ

帝都の事件

十五日帝都に勃發した事件は、未だ曾て聞かざる出來事で、立憲治下においては斷じてあるべからざることであり、まことに聖代の不祥事といはねばならぬが、事件の犠牲として犬養首相の死を聞くは痛惜の至りである。われ等は事件の發生を悲しむと共に首相の死に對し衷心より哀悼の意を表せね

ばならぬ。この出來事は、その關係者が陸海軍人であり、組織的且つ團體的に行はれたもので、襲撃の箇所も首相官邸を始め、內大臣官邸、政友會本部、日銀、警視廳、銀行、變電所等に及んでゐる點から見て、その性質の重大なることを知るべきであるが、首相の死は全く事件の犠牲に供せられたのである。政治家がその職に倒れるは寧ろ本懐かも知れないが、理非を究めず、暴力によつてその生命を奪ふ如きは法治國においては斷じて許されぬことで、それが國家に及ぼす害惡損失は測り知ることの出來ぬものである。

この事件の背後に、根底に何が潜むかについては尙今後の探査考究に待つべき處があるが、今までに知り得たところによつて見るならば、この事件は現在の政黨政治、議會政治に對する不滿反感と、國家の現狀に對する憂國的熱情から發せるところのもので、その行爲の惡むべく、野蠻極ることは一點辯護の餘地もないけれども、その原因乃至動機においては比較的純粹なものであり、少くも賞名などの如き不純なる動機によるものでないことは、事件後犯人が相率ゐて自首して出てゐる事實に見て明かなるやうである。この事件について當然想起されるは昨年來軍部の一部に生ぜるある種の運動であるが、この事件が若しかの血盟團事件に連關するものとすれば、それは相當深き根底を有するもので爲政者は勿論國民一般に省察戒愼を要するものといはねばならぬ。

政治政的改革の目的を暴力によつて達せんとするものに對しては、その思想系統のいづれに屬すると如何なる指導原理によるとを問はず、斷じて排撃すべく、些も容赦すべきでないが、かゝる傾向を一方にして、現前の政黨政治、議會政治が餘りに腐敗墮落し、その本來の面目を失ひつゝある事實及びそのために、今や國民の間に議會否認の傾向を生じつゝあることを認めねばならぬことは遺憾である。かくてはテロリストの跳梁跋扈を防止することは實際において無理なことではあるまいか。然るに政治家達はこれに對して殆んど沒反省であり、自己の責任を自覺するところなく、口には議會淨化政黨改善を說くけれども、それは一片の口頭禪にとゞまり、手には全く反對のことを實行してゐる。既に議會否認の傾向がこゝまで生じて來てゐる時漫然と議會擁護を說き、その改善について何等の熱意も實行も示さゞるは、議會否認論を一層硬化させるわざではあるまいか。

最近兇手に倒れた政治家としては濱口氏があり、井上氏があり、財界人としては團氏があるが、此等はいづれも政界、財界の犠牲となつたのである。これ等の犠牲はその都度箇人的に同情の意を表せられてゐるが、それによつて政界が覺醒し、乃至淨化の機緣になつたやうな事實は見られない。高價に購はるべき犠牲が實際はいつも無意味の死として忘れられて行く。政界のためにどれだけの血が流されても、政界の情弊は依然たるものである。テロリズムは惡むべく、排撃すべしとするも、現在の

政治には淨化改善の餘地が多く存する以上政治のために流される血は出來るだけ高價に買はれねばならぬ。少くも今回の犬養首相の遭難の如きは、犧牲としてその價値を最も高價ならしめねばならぬ。

犬養首相の人物や政治的閲歴については事々しく絮説するまでもないが、是非とも特記せねばならぬ一事は、氏が憲政の擁護に努力したる功績の偉大である。氏はわが憲政史上に永く光輝を放つ政治家である。今や憲政の危機を傳へられ、内外時局重大なる際、氏を失へることは國家に取りて償ひ難き損失である。われ等は氏の死が政界の犧牲として十分有意義ならんことを希望するものである。

犬養首相兇彈に殪る

恐怖すべき强襲事件

犬養首相は十五日午後五時官邸に於て、海陸軍將校團の强襲を受け、頭部に彈創を蒙り、同十一時二十五分を以て逝去した。右の將校團は十八名の將校及び陸軍生徒より成るもので、彼等は手分けして各機關の爆破を試み、その他に、政友會本部、内大臣官邸、警視廳、日本銀行、三菱銀行等に手榴

彈を投げ、若しくは殺傷を行ひたるものである。今回の兇行は現役將校及び陸軍生徒を一團とするものであり、且つ日中公然と自動車を乘り廻はし、各機關に强襲を行ひたる點に於て、かつて見ざる結構と手段を有するものである。實に恐怖すべき事件と言はざるを得ぬ。首相は遂に逝去するの不幸を見るに至つた、哀悼に堪へない。

この一隊の强襲團が如何なる目的と背景を有せるか、今その内容は知るを得ない。かの撒布せられたと稱せらるゝビラ中の記載も、傳ふるの自由を有せないが、既成政黨を倒し、財閥に膺懲を加へ、建國の精神に返りて、新日本を建造せよといふ、極右派の思想を代表せるものたるは想像され得るのである。我等は久しき以前に陸海軍人中に斯る思想を抱き、何等か重大なる決議をなせるものありとの巷説に接したのである。而してこの事には種々の流言蜚語を伴ひ轉々して一部には容易ならぬ流傳さへあつたのである。勿論これは夢の如き巷説に違ひなかつたが、この事件と聯繫する所あるか、或はその一端の現はれであるか、そは一切知り能はぬ所であるが、勃發したる事件の性質は實に恐怖すべく、國家のために深憂を禁じ能はぬのである。

以上の如く今回の强襲は、都下各機關に爆擊を加へたものであつたが、その爲す所は頗る兒戯に類し、手榴彈を投じ、短銃を放ちて建物を破壞し、これを制止した警官を殺傷したるなど、唯亂暴狼藉

をなして荒し廻りたる趣きがある。首相を襲ひたるものは、首相の老軀を拉致して、正面より短銃を擬したのであるが、實に悲慘を極めて居る。何れにしても直接行動によりて政治上の目的を遂行せんとしたもので、我等の國民と共に痛嘆に堪へずとする所である。政治の傾向、政黨の墮落等に就き寒心に堪へざるものあるは、獨りこれ等の人々のみでない、何人もこれを矯正して純眞なる政治の行はれんことを欲するものであるが、爾かもこれを直接行動に訴へんとするなど、神聖なる國家を破壞する行爲である。

犬養首相は我憲政史には貴い存在であつた。今の政黨は官僚でなければ、實業家の轉身したものである。政黨に墮落ありとすれば、幾分それ等の誘導に依ることも否認出來ぬ。現在政黨を旋回せしめつゝある頭腦中に、首相と同樣なる政黨生え抜きが幾人あるか、蓋し寥々たるものである。首相は眞に政黨人であり野人であつた。今その政黨人が身臺閣の首班にありて、終に兇彈のために殪れたのである。死して而して遺憾なしであらう。首相の政治思想に反對したものも、首相の憲政上の歷史には恐らくは一人も稽首しないものはなかつたらう、その卓々として政波を凌ぎ來れる清節は、實に政界の至寶であつたのである。首相の逝けるは獨り政友會ばかりではない、實に國家の大損失である。

新潟新聞

横行するテロリスト

帝都を一大不安の地と化せしめた驚くべき首相狙擊事件が、單に首相その人の生命を擊つたにとゞまらず、或は牧野内府邸に、或は警視廳に、政友會本部に各所を襲ふて爆彈を投じ、警官を殺傷し新聞記者を傷害し暴風慘雨、昭代に豫期し得べくもない狂暴行爲を敢てしたことは何といふ戰慄すべき事實であらうか。犯行者十八人が部署を定めて同一時刻に數ケ所に狼籍を働いた點から見ても、豫め用意した不穩ビラを到るところに撒布したところから考へても、いかにこの兇行が頗る根强き計畫的のものであつたかも想像されるが同時に幼稚笑ふに堪へたる狂亂的行爲と稱すべきは、彼等が政友會本部や日本銀行の如き建物に損傷を加へ徒らに痛快を叫んだところで、それが果して幾許の効果を其目的の上にもたらすことが出來るか。建物は幾たび破壞したところで政友會も日本銀行も之が爲に滅びはしまいに、斯かる行動から實質的にそも〳〵何の得る所があらうか。彼等が揮つた暴力に民衆は決して追隨するものではない。否苟くも良民であつたら、擧つて其殺伐の血に聖代を瀆す狂暴行爲を

呪咀するであらう。かくの如くにして今回の兇變は唯一部の徒の頑迷と迂愚とを印象させるに過ぎぬではないか。

我等が常に大勢の前に盲目なる偏僻固陋の誤れる保守反動の愛國觀念、時代に逆行し民意を無視した獨斷的のファシズムを極力非として排擊したるも畢竟斯うした兇惡行爲の民心に及ぼす影響から延いて國家の威信を損じ國政の衰頽を招きはせぬかと憂慮したからであつたが果然杞憂に終らずしてそれが今回實現したるは邦家の重大恨事であつた。政黨の腐敗は彼等の口にする如くであつても其匡救には合理的の方法があるのに苟くも聲殼の下に宰相を殺傷し、更に主要なる官衙や顯官の邸內に危險を與へて帝都の治安を攪亂し、畏くも宸襟を惱まし奉るといふ言語道斷の暴狀を逞しくして、どこに政黨の腐敗を慷慨し、自ら立つて國民大衆をリードするに至る資格や權利があり得るか。愛國を高唱して非愛國の限りを盡すは天下に最も憎むべき罪惡ではないか。我等は國民が徒らに無條件に羊皮狼質の僞愛國論に雷同せず、たとへいかなる地位、いかなる階級に屬する人の提唱にもせよ、靜かにこれが曲直を判斷し、時代人心に及ぼす影響の得失を考慮して、妄りに俗論に心醉し、盲從し、そしてその非謀と犧牲に供せらるゝことなきを切望してやまぬ。

更に今回の兇行が過般の白色テロリスト小沼、菱沼等の血盟團と其系統を一にして其間大いに脈絡

ありと傳へられることも益々我等を考へさせる一大問題といはねばならぬ。不幸にして萬一にも其由つて來る禍根が深く其背景が意外に强大なる方面に在るものと假定すれば、テロリストの橫行を徹底的に絕滅するといふことは或は至難であるまいか。人は往々共產黨の危激のみを恐れ、右傾一派の獰猛なる暴力行爲を寬假する傾向を示すが、矯激不穩、國家の秩序を紊亂する兇暴の點は兩者全く同一でないか。我等は此兇變に關し更に進んで深刻な評論を試みたいが今は其自由を有せぬ。即ち唯理非正邪の判別について國民の態度が飽迄嚴正ならんことを促して置く。

憶海日新聞

國民反省の秋

此の不祥事件を活かせ
禍を轉じて福とせよ

東京に於ける今次の不祥事件は何と云つても遺憾の極である。それは唯首相の死を悼むのみの意味からではない、多くの負傷者を出した事ばかりから云ふのではない。然うした犧牲者を出した事もと

より遺憾であり、また其の犯行を敢てした十八名の人々も、或は海軍將校であり、陸軍士官學校生徒であつて、其一身を犧牲にする覺悟を以て、國家の事に當つたならば、如何に立派な働きが出來たか知れないのに、青年の血氣にはやり、大局を達觀する事をせずして、此うした變則のテロ戰術の犧牲となつて、却つて國家の爲に害毒を流した事も、甚だ遺憾であるが、それよりも更に更に遺憾なのは我國現下の社會狀態が、斯る事件を發生せしむるほどに惡化してゐることである。

何が、彼を此うさせたか、海軍中尉、少尉、乃至陸軍士官學校生徒、まだ青年で社會の表裏に通ぜぬとは云へ、相當に教養の在るものである。或は彼の血盟團とか稱するものに關係あるやの說があり何れ彼等を煽動し指導したものがあるには相違なからうが、其れにしても、是等の人々が、其の煽動に乘り其の指導の下に働くといふことは、現下の社會狀態が、それだけに惡化してゐる者である事を語る譯ではないか。少くとも現在の社會に、大なる缺陷があればこそ、斯る不祥事件も發するのである、是を以て、單に其の取締に當る警視廳だけの責任とするが如きは、餘りに短見である。社會の狀態が惡化して、大きな缺陷が各所に生じ其の爲に、人心が險惡になつては、如何に警視廳が眼を光らしても、如何に巡査や警部の人員を增加しても、如何に銃砲火藥の取締を嚴にしても、如何にピストルや仕込杖の取締を密にしても、それは何の効力もあるものではない。それは枝葉の問題で、其の根

本、其の根ざす所は、他に在るからである。

されば憂國の士は勿論、苟も我日本の人士、日本國民を以て任ずるものは、此際大に反省して、其の社會的缺陷を除くことに意を注がなくてはならぬ。直に社會を救ふといふ事は微力で出來ないものでも、其の心掛けを以て、自分一人でも、社會を好くすることに力めむとする心掛をなさなくてはならぬ。唯困つた事が生じた、國家の不祥事だ、法治國に有るまじき事だ、テロ戰術は避けなければならぬと云つただけでは、是れ空念佛である。何の効果もない、先ず自分一人だけでも可いから、反省し、深慮して、社會を好くする心掛を爲す可きである。然らば今次の不祥事件を轉じて福となすことが出來るのである。然るに其の反省を爲すべき國民は、果して反省をなしつゝありや否や、之を吟味しなければならぬ。

今次の事件は、決して對岸の火事のやうなものではない。其の直接の被害者は、犬養首相其他の死傷者であるが、其の火事の火の子を被つてゐるものは、正に全國民である。此の火の子を被り乍ら、尙自ら反省せずに居るやうであつたら、此の火災は何處まで延燒するか知れない。火元は今度自首して出た人々だけではないのである、血盟團だけではないのである。然るに多くの國民中、尙少しの反省の實を示さない者の眼前に橫つてゐるのを見る、是が吾人の最も大なる遺憾とする所の物である。

今次の不祥事件を起すに至つた第一原因は、既成政黨の墮落して黨利を先にし、國家を後にする態度である。之が青年將校生徒達を憤慨せしめた、又政黨と結托してゐる財閥の横暴である。是等は此の事件によつて果して如何なる反省の實を示すか、之は暫く時日を假さなくてはならぬ。今直に其の反省の實を示すことは困難であるかも知れない。けれども其の黨内に於て、何派だとか何系だとかいふ爭ひが猛烈なる所を見ると、容易に反省しさうにも思へぬ。蓋し是等の團體になると、個人の場合のやうに、直に其の方向を轉換するといふやうな事が出來ない事情もあるから、今急に之を責むる事は多少無理かも知れない。

又財閥の人々も、今俄に反省の實を示せと云はれても、之を具體的に見せる事は困難であらう。されば是等の者は、暫らく時日を假すとして、國民は彼等の將來の行動を監視するが好い。

横濱貿易新報

立憲の大道に邁進せよ

十五日の帝都に於ける重大事件は何共、不祥極まる事件であつて、全國國民の心情を刺戟し、世界に向つて衝動を與へたること蓋し想像以上のものがあるであらう。此の際、日本國民は、一層自重して立憲國民たる本領を保ち、沈着と聰明と冷靜と威嚴とを保つ心掛けが大切である。而して、今日の時局に當つて、益々、五箇條御誓文の御精神を奉體し、帝國憲法の條章に基き、立憲の大道に向つて勇壯なる歩を進めなければならぬ。時局が紛糾し、重大事件の起ると共に、一層、五箇條御誓文と帝國憲法との眞精神を明かにし、日本國民の踐むべく據るべく則るべき立憲の大義を明らかにせなければならぬ。

力の政治、强力の政治、獨裁の政治を目標とする運動は、昨今の社會現象の一つとして、注意を拂ふべき傾向である。この傾向に屬する運動が、或る種の方面に行はれて居ることは、有識者の夙に注意を怠らざる所であつた。而して、此の種の運動は、現代世界に於ては、主として伊太利に於て行はれ、ムツソリニー首相は此の種の行動を以て、其の目的を行つて居る。然しながら、伊太利や諸外國と、我が日本國とは、國家組織の根本に於て原理を異にし、性質を異にす。我が日本國は、萬邦無比の神聖國體の上に立つ皇道國家であることを常に深く心肝に銘じ、苟くも忘れてはならぬ。諸外國の實例を引用して、直に、是れを我が日本國に適用する企てをなすことは深く慎まねばならぬ。恐怖的非常手段を以て、革命行動を企つることは、諸外國の中には、往々行はれて居るが、此等の諸外國に

於ける事件に對しては、極めて、嚴正なる批判が肝要であつて、日本國民は、日本の國體に基く憲政有終の美を全うするために、忠誠なる努力を捧げなければならぬ。

此の際、特に、海陸軍人の自重を望まざるを得ぬ。本年は、長くも軍人勅諭奉戴五十年記念に當り先般は、恐れ多くも、天皇陛下の御親臨を仰ぎ奉つて、記念祝典の催しが行はれた。而して、滿洲及び上海事變を通じ、日本軍隊の威力は、實に、全世界を風動して居る。實に、軍隊の威力と功勞とによつて、日本の國威は伸張し、國運益々隆昌に向つて居る。斯く軍隊の威力の向上せる時に當つては一層、軍人は、其の本分を守り、益々自重して、軍人たる名譽と威嚴とを保たねばならぬ。

長くも、軍人勅諭におかせられて『世論に惑はず、政治に拘はらず、只々、一途に、己れが本分の忠節を守り』と仰せられ『朧氣なる事を假初に諾なひて、よしなき關係を結び』と御戒められ『大綱の順逆を誤り、或は公道の理非に踐み迷ひて、私情の信議を守り、あたら英雄豪傑どもが、禍ひに遇ひ身を滅ぼし屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠からぬものを、深く警めでやはあるべき』と仰せらる。實に軍人は、國家の干城である。恐れ多くも、天皇陛下の股肱の臣である。其の本分や貴く其の任務や重大である。國家の重大時局に當つては、特に、軍人の自重を切望せざるを得ぬ。

戰慄すべきテロ事件

今回帝都に起つたテロ事件は戰慄すべき一大不祥事件である。獨裁專制政治の時代ならば兎も角、立憲政治の今日に於て、かくの如き戰慄すべき直接行動が白晝公然帝都の眞中に於て敢行されるといふ事は、空前の事である。昨秋以來滿洲事變、上海事件などが勃發し一般國民殊に軍人の感情が昂奮してゐる事も多少の關係があるかも知れぬが、近來我國のブルジョア階級、殊に政治家政黨等が、眞面目と眞劍味を缺き、これがために各方面が行詰り、一般國民の生活が甚だしく壓迫されてゐた。この頃ファッショ運動が一部國民の間に唱へられ、又議會や政黨不信の聲の高いのも、主としてこれに原因するやうである。

故に識者は早くから、今日のやうな不祥事の起らざるやを窃かに憂慮してゐたものである。昨年もこれに類するテロを企圖したものがあつたやうだが、それは闇に葬られた。これ等の暴力行爲を、幾度官憲の力を以て退治しても、その暴力行爲の由つて起る原因を除去しない限りは、次から次新らし

い暴力行爲が發生して、永久にその跡を絶たざる事は、彼の共産主義者の掃蕩と異る處はない。近來ファッシズムの擡頭に對し、既成政黨方面では、頭からこれを排斥してゐるが、それは呪はれるもの〻理窟であつて、呪ふもの〻理論に關係はない。我等は過日も論じた如く、勿論ファッシズムや暴力行爲には反對であるがこの理論や行動に由つて起る原因を除去しない限りは、到底今日の社會から、この不法手段を一掃する事は出來ない。

公平に見て現在の我政黨や議會は鼻摘みである。これが國民の代表とか、輿論の府とかいふのは、僭越も甚だしいものである。政府も政黨も口では國利民福を唱へるが、その一味の利を圖るためにこの手段は益々露骨を極め、又議會は言論の府にあらずして、多數黨横暴の府、言論抑壓の府、彌次暴行の府の觀がある。その結果として國政は擧らず、財政經濟は行詰り、失業は增加し、農村は疲弊し富めるものはこの世の極樂世界を樂しむが、貧民は宛らの地獄苦に喘ぎ、自殺發狂離散、悲風慘雨並び到るの有樣である。これでは慨世憂國の士でなくとも、現在の政治に對して慊焉たらざるを得ない然るに犬養首相は現世相に對して認識甚だ不足で二三日前新聞記者に語つた談話の中にも「近來ファッショ運動の聲が世間にあるやうだが、あれは日本國民中の僅かな部分だ、又議會で彌次や暴行が盛んだといふが、人間は昂奮すると立派な人でも亂暴するものだ」と、事もなげな事をいつてゐる。

故首相が現在の議會や政黨に何等改良反省の必要を認めずといつた如き以上の口吻は、彼等ファッショ運動をなすものに對して、一服の昂奮劑を與ふるが如きものである。我等はファッショ運動や暴力行爲は、極力排斥せんとするものであるが、同時に我政府政黨及政治家に對して大々的の反省を求めんとするものである。大正十二年の關東大震災は、輕佻浮華の國民に對する天譴だといひ、爾來暫らくの間國民は相當謹慎したものである。我等は今度の事件を人譴とはいはないが、兎に角この事件を動機として、國民の悉くが眞面目に歸り、眞劍に熱誠に、國內に瀰蔓する有ゆる弊害、有ゆる毒素有ゆる不純物を一掃して國民上下悉くその生を樂しむ昭和維新を實現せねばならぬ。さすれば暴力行爲の如きは取締らずして絶滅するであらう。

重大事件と國民の反省

十五日夕刻突如として東京に起つた重大事件は、まことに全國民の心膽を寒からしめるものがあつた。帝都治安の府たる警視廳に爆彈を投じたのを手はじめとして首相、內府等高官の邸宅、日本銀行

三菱本社等金融財界の中樞的場所に對して、それぞれ同樣の手段に出で、犬養首相はその官邸においてピストルで狙撃せられ、ついに薨去するに至つた。かくて帝都は一大不安にさらされ、戒嚴令さへ布かれんとするの危機に及び、この報一たび全國に傳はるや、一時國民は極度の不安におそはれ、重大なる危惧の念をいだいた。しかしてその動機は別として、その手段と方法のあやまてることは、まことに遺憾至極といはなければならぬ。

ことに、その內外の政策に對する意見の相違はともかくとして、また既成政黨の傳統的不信もさることながら、それがために犬養首相がたほされたといふことは、ひたすらその不幸に同情せざる能はず、深く哀悼の意を表する次第である。たゞ今回のごとき空前の重大事件に直面して、國民として深く心にひそめて反省すべきことはわが國現下の政治的經濟的乃至社會的の事情と、これらのすべての機構の中心となつて、これを動かしつゝある、政黨と政治家と財閥と資本家等々の態度と行動が毫も國家、國民の利害に關心を持たず欺瞞と權謀と術數をもつて、自己のために權力金力を追ふに寧日なく、滔々として腐敗墮落しつゝある實情が、何等かの異變の發生しそうな、雰圍氣を醸成しつゝあつたのではないかといふことである。

議會政治の今日の無力と醜狀はその責もとより直接には政黨および政治家にあること勿論であり、

從つてこれを糺彈し問責することは適當ではあるが、さらに深く反省するならば、政黨及び政治家に對して、選擧を通じて十分なる牽制を加へ、かつ矯正の實力を揮ふことを怠りたる國民も、またその責任の一半を負はなければならぬのが條理の當然ではないか。權力と結合した財閥資本家の橫暴擅恣も、また政治の機構を通じて、國民的牽制の途がないとはいへない。徒らにその結果を見て悲憤歎息する前に、先づ合法的手段に講ずるの、用意に缺くるところはなかつたといへるか。

およそ物窮すれば、すなはち通ず、たとへ通ずる能はずとするも通ぜんとする作用の、おのづから起らんとするは往々免るべからざるところである。すべての方面に行きづまつたわが國の現狀が、眞劍にその行詰りを打開せんとする國民的努力が拂はれざるに當つてようやく爆發せんとする機運を醸成する嫌ひがあるのは、國民の膽に銘じて反省を要するところである。犬養內閣總辭職後における、後繼內閣組織その他の善後的措置が、果して如何なる形式態樣をもつて現はれるかは知らないが、政黨と政治家の嚴重なる自戒自律と最も眞劍なる國民的反省を基礎として出發するにあらざれば、さらに悔を將來に遺すであらう。

山形新聞

憲政の危機

何の法治國ぞ

兇彈犬養首相を殪して、政友會內閣直に倒壞す。まことに憲政の危機、棘々としてそれ危い哉。維新以來、世相の險惡は今日より甚だしきはなく、思想の混亂今日より滋きはない。然も白晝橫行する赤色のテロリズム、前者は所謂三・一五事件以來十數名の警察官を殺傷し、後者は一昨秋以來、政界財界の巨頭を兇殺すること三、いままた犬養首相その魔手に殪る。國民は法治國の正姿を何れに求むべきや、生命財產の保護を何處に求むべきや。

警戒嚴裡の首相官邸が兇殺の場所に選ばれ、十數名の兇漢が一國の宰相を斃して、そのまゝ逃走したといふが如き未曾有の椿事が白晝公々然と演ぜられ、警察官は手を束ねて、呆然これを見送るが如き、何處に政治の威信があるか。まさに無政府狀態、宛然白色恐怖時代を現してるではないか。

祖國愛の名に隱れて、淺薄なる反動思想を盛つた檄文が、何處からともなく撒き散らされて居る。

官憲はこれの取締りさへも出來ない。帝都一萬二千の警察官は、斯くの如き兇漢の出沒を豫知することも出來なかつた。その無能まことに古今獨步といふべきだ。

代議政治の否認、必ずしも排擊すべきにあらず、然し我國民衆の議會否認は、議會の本質を否認するのでなくして、議會政治を運用する政黨を否認しようといふのである。否寧ろ政黨禍を否認せんとするのである。

政黨政治が無用有害なのでなくして、代議政治を運用する現存政黨が無能なのである。政黨が眞に國家の正しき政治を運用し、政黨員が眞に民衆の利害を代表するならば、何人か代議政治を咒はうぞ國民誰か政黨政治の本質に疑惑をさしはさまうぞ。

日本の政黨は、支那の軍閥とアメリカのギャングとともに、三つの大きな世界的謎だといはれてゐる。憲政布かれて四十年、未だ發達途上にあるとはいへ憲政の退轉はこの頃に至つて殊に甚だしい。政黨の結成は利權を中心とし、財閥は政黨を操縱して利權の獨占を企圖してる。政府とは執政の府でなくして利權の府である。國民誰かこの現狀を呪咀せざるべき。

貧富の懸絕その矩を越えて階級的溝渠を益々深くし、飢民その途に橫たはると雖もこれを救ふ何等の方法がない。政治形態の變革は政黨無能の聲に拍車を加へて來た白色テロはこの潮に乘つて押寄せ

た社會否認の幻影である。

さはれ、憲法は千古不磨の大典章、國本民治の大正條である。政黨は淨化すべし、然も憲法を素すべからず、政黨禍清算すべし、然も代議政治を變革すべからず、われ等は憲政擁護のため今こそ國民起つべきの秋だと思ふ。

編輯局より

五月十五日の夕刻、帝都數ヶ所に爆彈を投じ、且つ多數の壯漢總理大臣官邸に躍り込んで、犬養首相に不意打を行ひピストルを亂射して、その玉の緒を絶つたことは、眞に青天の霹靂、人をして驚愕と、恐怖と、錯愕の念に堪えさらしむるのである。

何といふ亂暴な話、何といふ凄慘な話か——これまでとて幾多の暗殺事件があつた、一代の大政治家にして、非命の最後を遂げたものは必ずしも尠くはない。そうして夫れは獨りわが日本のみではなく、ツイ數日前に於ても、フランス大統領も狙撃せられて悲慘の最後を遂げたことは、國外に起つた

出來事ながら、われ等の悲憤慷慨に堪えなかつた所である。翼には民政黨總裁で時の濱口首相が刺客に襲はれた、一年近くも病床に呻吟して、實に悲痛極まつた最後を遂げた。舉世悉く之を痛恨した、敵も味方も等しく涙の袂を絞つたことは、餘りにも生々しい事實である。今春臨時總選擧の眞ッ最中には、井上前藏相が暗殺せられ、次で三井の團琢磨氏が暗殺せられた。實に憎むべく、恐るべく絶對に排撃せざるべからざる「直接行動」なるものが頻繁に繰返さるゝ事は、實に遺憾の極と申さねばならぬ。所謂恐怖時代を現出したのである。殊に今回の襲撃事件の如きは、殆ど前例のない大仕掛のものであつて圓タクを驅つて、而も陸海軍の將校、生徒が、部署を定め、時刻を同うして、警視廳を襲ひ、牧野内府を襲ひ、日本銀行を襲ひ、三菱銀行を襲ひ、政友會本部を襲ひ、首相官邸に躍り込んだといふ事實は、全く計畫的、作戰的行動であつて、一層驚殺せらるゝのみならず、それを敢行したものが陸海軍の現役將校なりといふに至つては、最早言語道斷、これまでの所謂刺客とは、同日に論ずべからざるものがある。

抑彼等不逞の徒は、何が故に、白日而も狂暴極まつた行動を憚らざるに至つたか。彼等が警視廳を襲撃したる後、車上より撒布したる宣傳ビラ、斬奸狀なるものを見ても、徒らに慷慨激越の文字を並べた丈けで、取止めが付かぬ——犯人の素性、動機一切がまだ秘密に包まれて居るから、彼等の背後

に如何なる背景があつて、而して連絡があるか單に想像を描く丈けであるが、併し斯る不穩の空氣が世の中の一隅に漲り渡つてゐることは、寧ろ世間公知の事實であつて、亦われ等がそれとなく、幾たびか論じて置いた所である。

われ等は、犬養氏が今回不測の災難に對しては、限りなき哀愁を禁ずる能はざると同時に、一面亦實にその暴狀を剔抉して、禍根を絶つの覺悟を必要なりとする。

腹藏なくいへば、國家、社會を毒する不逞の徒は、或は時代の產物かも知れないけれども、斯る兇暴を敢てせしむるに至つた動機の中には、亦たしかに現代の政黨及政治家をして反省せしむべきものあることも、決して算外においてはならない。

帝都の大騷擾

十五日帝都に勃發せる一大不祥事、然り吾等は一大不祥事といふより以外、またこれが形容の辭に苦るしむなり。而して之我が國開闢以來殆ど未曾有の事に屬す、爲に吾等の手指麻痺し、吾等の紙筆

また爲に凝結するものなくんばあらず、吾等は今玆に彼等一味の犯行に對し、これを批評論議するの自由を有せずといへども、而も彼等は俠雄を以て自ら任じたるその趣旨、動機の奈何にかゝはらず、畏くも聖慮を侵し奉り宸襟を煩はし奉りし罪や、當に萬死にあたるべし。吾等はたゞ惶懼恐懼の至りに禁へず。

悼惜に禁へず

犬養首相、刺客の手に斃る、嗟これ何等の悲慘事ぞ、暗殺、刺客その事の善惡是非はこれいふまでもなし、刑法人を殺す、猶大いに論議すべきものありとして、既に死刑廢止論可否の議、各國の研究するところならずや。況んや、人人を斬り、人人を殺すにおいてをや、吾等は唯かゝる兇行を敢行せしむるに至りし世相を轉た痛嘆せずんばあらず、犬養氏その人となりや頗る東洋的將三國志的にして所謂蝨を捫して當世を談ずる底の人なり、その精悍の氣や昂然として外に溢るゝものあり、故に刺客數名の闖入するあるを見るや、毫も倉皇の態あらず、徐に侍婢兒輩を退けて、裕然彼等を一睨してその無法を叱し、先づ我が言を聽け、然る後行ふべきは行へと一喝したる如き、何等の剛毅、何等の沈着ぞ、豪膽眞に斗の如しといふべし、而してその首相としての政治上の施設に至りては、吾等また別に說あるも、既に十日の菊たるを免れず、而も犬養氏また一世の人傑たり、今や斯の人を亡ふ、吾等

深くその死を悼むと同時に、將國家のためにその死を惜みその死を哀しむや切なり

元老責任重大

帝都の騷擾、首相の薨去、內閣の總辭職、而して來るものは何か、曰く後繼內閣これなり、而して後繼內閣それ果して何人の手に歸すべきか、政友會は總辭職の動機に鑑がみ從來の例に徵して、組織の大命降下それ當然我が黨にありと思惟せるも、而も首相その人につき黨中二派を生じて兩々相鬩ぐの醜態を演ぜんとし、且しきりに焦躁するものゝ如し、民政黨又私かに所謂盥廻しを夢想せるものなきか、或は又擧國一致內閣をいひ、或は强力內閣を叫ぶものなきにあらず、吾等は果してその何派何人が後繼するかは、敢て關心せざるなり、これを要するに這般の如き事態の、再び招來せざらんことを切望するもので、而してこれ實に元老西園寺公の意中奈何にかゝる、元老責任の重大なる、特に這次の如きはあらず

【新聞全集】（各送料拾五錢）

新聞之新聞社發行

1	寺田四郎著	英國新聞論	殘部アリ
2	喜多壯一郎著	フランス革命前後の新聞の動向	賣切レ
3	飯守勘一著	生きた新聞廣告論	賣切レ
4	刀禰館正雄著	新聞經營論	賣切レ
5	坂口二郎著	ロンドンタイムス史論	殘部アリ
6	矢野正世著	新聞は斯くありたし	賣切レ
7	千葉龜雄著	一九四〇年の新聞	近刊
8	松宮三郎著	新聞廣告の諸問題	殘部アリ
9	櫻田鈔次郎著	新聞ライフ四十年	近刊
10	江崎遠夫著	新聞印刷工場論	殘部アリ
11	小野秀雄著	新聞發生史論	殘部アリ
12	小汀利得著	新聞界種々相	近刊

五・一五事件と各紙の論調【定價金拾五錢】

編輯人 印刷人 發行兼 式 正 次

東京市京橋區銀座西四ノ五

印刷所 新聞之新聞社

東京市京橋區銀座西四ノ五

發行所 精華書房

東京市京橋區銀座西四ノ五

昭和七年九月二十一日印刷

昭和七年九月二十五日發行

終